

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



第 27 回全日本銃剣道選手権大会



第 54 回全国道場少年剣道大会



第 35 回わんぱく相撲全国大会



日本武道館中道場完成



第 30 回全国都道府県中学生相撲選手権大会

2回目の優勝

高松宮記念杯争奪

第27回全日本銃剣道選手権大会



藺田泰之(長崎)が

決勝＝藺田泰之(左)が上胴で優勝を決めた

銃剣道日本一を決める高松宮記念杯争奪第27回全日本銃剣道選手権大会(主催Ⅱ全日本銃剣道連盟、後援Ⅱ日本武道館・日本武道協議会ほか)が、8月2日に日本武道館で開催された。大会では、各地の予選を勝ち抜いた60名に昨年の入賞者4名を加えた64名が覇を競った。

決勝は藺田泰之(長崎)が松山昌樹(大分)に上胴を2本決めて勝利し、藺田が2014年以来5年ぶり2回目となる頂点に輝いた。



試合はトーナメント方式により行われた。一試合は5分3本勝負とし、時間内に勝負が決しない場合には、時間無制限の延長戦で争われた。

1〜3回戦

第1ブロックでは、一昨年優勝の藤原考貴（岡山）がまさかの1回戦敗退。3回戦では藤原を破った秋元陽樹（福島）と松山昌樹（大分）が対決し、松山が延長で下胴を決めて準々決勝に進んだ。昨年3位の小倉弘之（静岡）は、3回戦で森山駿（埼玉）に先制を許すものの、すぐさま2本取り返して準々決勝進出を決めた。



一昨年優勝の藤原（右）は秋元に上胴を取られて1回戦敗退

第2ブロックでは3回戦で、川村貴嗣（石川）が竹島慎一郎（鹿児島）に上胴を奪って勝利した。一昨年3位の中谷和彦（山口）と、昨年準優勝で今回10回目の出場となった加藤久幸（高知）による3回戦は、二本勝で中谷に軍配が上がった。

第3ブロックでは、初出場の土居祐介（広島）が3回戦で佐藤岳（静岡）に二本勝を収めてベスト8に出した。2014年に優勝した蘭田泰之（長崎）は3回戦で昨年3位の池戸淳（愛知）と対戦。蘭田は開始早々に下胴を先取すると、池戸の反撃を凌いで準々決勝に駒を進めた。

第4ブロックでは、仁尾正樹（東京）が蒲嶋直樹（熊本）との3回戦を1-0で勝利し、初のベスト8入り。また、このブロックでは昨年優勝の菅野学（福島）が登場。菅野は1回戦から失点を許さず、安定した試合運びで準々決勝に進出した。

準々決勝

松山昌樹 上ー 小倉弘之

開始から両者とも思い切った技が出せず、膠着した接近戦が続く。静



準々決勝②=中谷和彦（右）が小手を突く



準々決勝①=松山昌樹（左）が上胴で勝利する

選手コメント

▽ベスト8 小倉弘之の選手（静岡）



「敗れた準々決勝は、試合をやりながら延長戦にもつれるなど感じました。

なかなか自分の間合をつくることができず、どのように攻めていこうかと考えていたところで、最後は逆に松山選手に間合を詰められてしまいました。昨年は3位で、下手な試合はできないとは思っていましたが、特にプレッシャーには感じることもなく、相手に集中することができたと思います」

▽ベスト8 川村貴嗣の選手（石川）



「今日は一日を通して楽しみながら試合をすることができました。私は

いつも、守ることなく、最初から勝負にいくことを心掛けています。準々決勝でも勝負にいきましたが、通用しなかったですね。来年は3位以上に入賞できるよう、さらに頑張ります」

かに試合は進み、試合終盤、小倉が基本の間合で松山の木銃を払って突きを狙う。それに対し、松山は躲して下胴を放つが、惜しくも決まらな
い。試合が延長戦に突入して間もな
く、松山は基本の間合から一步表に
攻め入ると、小倉の動きが一瞬止ま
る。その瞬間、松山は木銃を裏に回
して伸びのある上胴を繰り出すと旗
3本。松山がベスト4に名乗りをあ
げた。

中谷和彦 下コ一 川村貴剛

準々決勝2試合目も序盤は接近戦
が続く展開。中盤に差し掛かると、
中谷が徐々に技を出し始める。試合
開始2分半過ぎ、互いに下がり、近
間から基本の間合になった瞬間に両
者が突きに出て、一瞬早く中谷の木
銃が下胴を捉え、中谷が先制する。
取り返したい川村は脱突で攻めるが
決め切ることとはできない。一方、中
谷は川村が基本の間合から仕切り直
そうと下がるところに、しぶとく突
いて攻めの手を緩めない。終盤、中
谷が左から払うと川村は思わず左胸
を防ぐ。中谷はその隙を見逃さず、
すかさず小手を突いて勝負あり。

藪田泰之 ノー下 土居祐介

藪田は軽快な足捌きで機会を窺
い、土居を翻弄する。試合開始1分
過ぎ、藪田は一つ踏み鳴らして間合
を詰めると、すかさずのどに飛び、
一本を先制する。二本目開始早々、
土居は素早く間合を詰めていき、思
い切った下胴で取り返す。しかし、
藪田は一切動揺しない。勝負とな
り、藪田は左に動きながら機会を探
ると、勢いよく上胴に飛び込む。こ
れが一本となり、藪田は準決勝に進
んだ。

仁尾正樹 下一 菅野学

仁尾は序盤から、昨年の王者を相
手に気後れすることなく手数で上回
り、積極的に攻めていく。対する菅
野は仁尾の技を冷静に捌いて、応じ
技を狙う。延長に入り、菅野は近間
からのどを狙うが、わずかに外れ
る。一方、仁尾も菅野の出端に上胴
で合わせるが、これも一本にはなら
ない。延長開始47秒、仁尾が基本の
間合から素早く一步詰める。菅野が
手元を上げると、仁尾はその隙に鋭
く下胴に飛び込み、旗が3本上がった。



準々決勝④=仁尾正樹(左)が下胴で菅野を降す



準々決勝③=藪田泰之(左)がのどを決める

▽ベスト8 土居祐介選手(広島)



「思っている以上
に体が動き、目標
は達成できたかな
と思います。練習

では部隊全体で強くなるように努め
てきました。その努力が今回の結果
に繋がったのだと思います。部隊の
みんなにはとても感謝しています。
今後の目標は、来年のこの大会で今
年以上の結果を出すことです」

▽ベスト8・前年度優勝 菅野学選手(福島)



「最低でも3位以
上には入りたいと
思っていたのです
が、難しかったで

すね。自分では昨年の優勝を考えな
いようにはしましたが、心の何処か
に、あといくつ勝ったら優勝でき
る」という意識があったのかもしれ
ません。それが思い切った技を出せ
なかった理由だったのだと思いま
す。(準々決勝で対戦した)仁尾選
手とは何度か試合をしたことがあつ
て、手の内がバレていたのかもしれ
ません」



▶準決勝①＝
松山昌樹（右）は思い切った下胴で
決勝に進んだ

準決勝



▶準決勝②＝
藪田泰之（左）は上胴を2本決めて
決勝に進出（写真は2本目）

●準決勝

松山昌樹 ノ下ー下 中谷和彦

試合開始1分半過ぎ、接近した状態から互いにジリジリと下がり、基本の間合になった瞬間に松山が攻め入ると、中谷は一瞬足を止める。松山は中谷の隙を見逃さず、のどに飛んで先取する。二本目開始早々、双方木銃を繰り出すと中谷の下胴に旗2本が上がり、勝負は五分に戻る。

両者果敢に突きを出すものの一本を奪えずに迎えた終盤、中谷は接近した状態から素早く間合を切って上胴を放って後退していく。松山は下がる中谷を逃さずに間合を詰め、中谷の動きが止まった瞬間に下胴を決め、試合終了。松山は初出場にして決勝に進んだ。

藪田泰之 上上ー 仁尾正樹

試合開始直後、藪田は上胴、仁尾は下胴に木銃を繰り出した。仁尾は一瞬出遅れ、藪田の上胴が一本となる。その後も藪田は、仁尾が下がった瞬間の直突や仁尾の攻めに対する応じ技など、一本にはならないものの機会良く技を出していく。試合終

決 勝



決勝＝薊田（左）が離れ際の上胴で先制する

盤、接近状態から仁尾が不用意に下がり始める。薊田は機会を逃さずに上胴を再び決めて、5年ぶりとなる決勝の舞台に駒を進めた。

● 決勝

薊田泰之 上上ー 松山昌樹

立ち上がりから、薊田は持ち前の軽快な足捌きで機会を探る。その軽やかさは、ここまで5試合をこなしてきたとは思えないほどである。

序盤から突いては接近し、基本の間合に戻って攻め直すといった展開が続く。その流れを薊田が断ち切った。薊田は接近状態からの離れ際に押し込むように上胴を突き、薊田が先取する。その後、取り返したい松山は間合を詰めていき、勢い良く上胴を放つ。会場はどよめくものの薊田は松山の上胴を巧みに凌ぎ、下がっていく松山を追い詰めていく。松山は攻め返そうと前に出る。それに合わせて薊田が上胴を突くと、見事に捉えて勝負あり。

薊田は5年ぶり2回目の栄冠を勝ち取り、御山昇おんやまのぼる以来2人目となる複数回優勝者となった。

◎優勝者インタビュー

経験をもとに掴んだ2度目の栄冠

◎優勝Ⅱそのだやすゆき 藺田泰之選手（長崎）

戦いを終えた藺田選手に松山選手との決勝戦を振り返ってもらった。「信じられないですね。喜びよりもとりあえずホッとしています。松山選手は同じ九州で手の内を知られているので通じないかなとは思っていましたが、自分が得意とする技で勝つことができました」

2014年に藺田選手は初出場ながら初優勝を遂げた。その前回の優勝から心境の変化があったという。

「前回優勝した時は、県予選で北慎一郎選手（第24回大会優勝者）にた



またま勝つことができて全日本の舞台に立つことができました。1回くらは勝ちたいという気持ちで出場で、一戦一戦、挑戦者という気持ちで試合に臨んで、無我夢中で戦いました。今回は、次に対戦する相手の試合をしつかり見て、どちらが上がつてきてもいいように、何度も戦うイメージをしていました。前回の経験を活かして、落ち着いて臨めたのかもしれないね」

軽快な足捌きから繰り出す思い切った技が持ち味の藺田選手。その戦いぶりは、相手の弱点を見極めて試合を組み立てる緻密さによつて生まれるものなのだろう。決勝戦は試合時間1分39秒と、あつけなく藺田選手が2本奪って優勝を決めた。試合を見ている側からすると、藺田選手からは余裕すら感じられたが、2分弱の大舞台には、見えない戦い

あつたことを、藺田選手から吹き出る大粒の汗が物語っていた。

また、2度目の優勝の裏には家族や職場の支えもあった。

「練習試合で遠方に行くこともあり、週末は試合で潰れることもよくあります。時には宿泊が伴ったり、週末は試合で潰れることもよくあります。妻の祖母とも一緒に暮らしていて、妻は祖母の介護の傍ら、子どもの面倒も見てくれるので、とても感謝しています。また、職場の方々も銃剣道に理解をいただいており、稽古に専念できる環境を提供してもらっています」

最後に、今日一日の自分自身に点数をつけてもらった。

「今日は80点ですかね。一本を取つてから不用意に出てしまったり、姿勢が悪くなったりしてしまったのが、20点減点の理由ですかね…」

相手の研究だけでなく、自身の分析にも抜かりがない藺田選手。地足をつけて試合に臨む姿勢が、再び優勝に返り咲いた要因なのだろう。今後大胆かつ緻密な技を繰り出す藺田選手の活躍に期待したい。

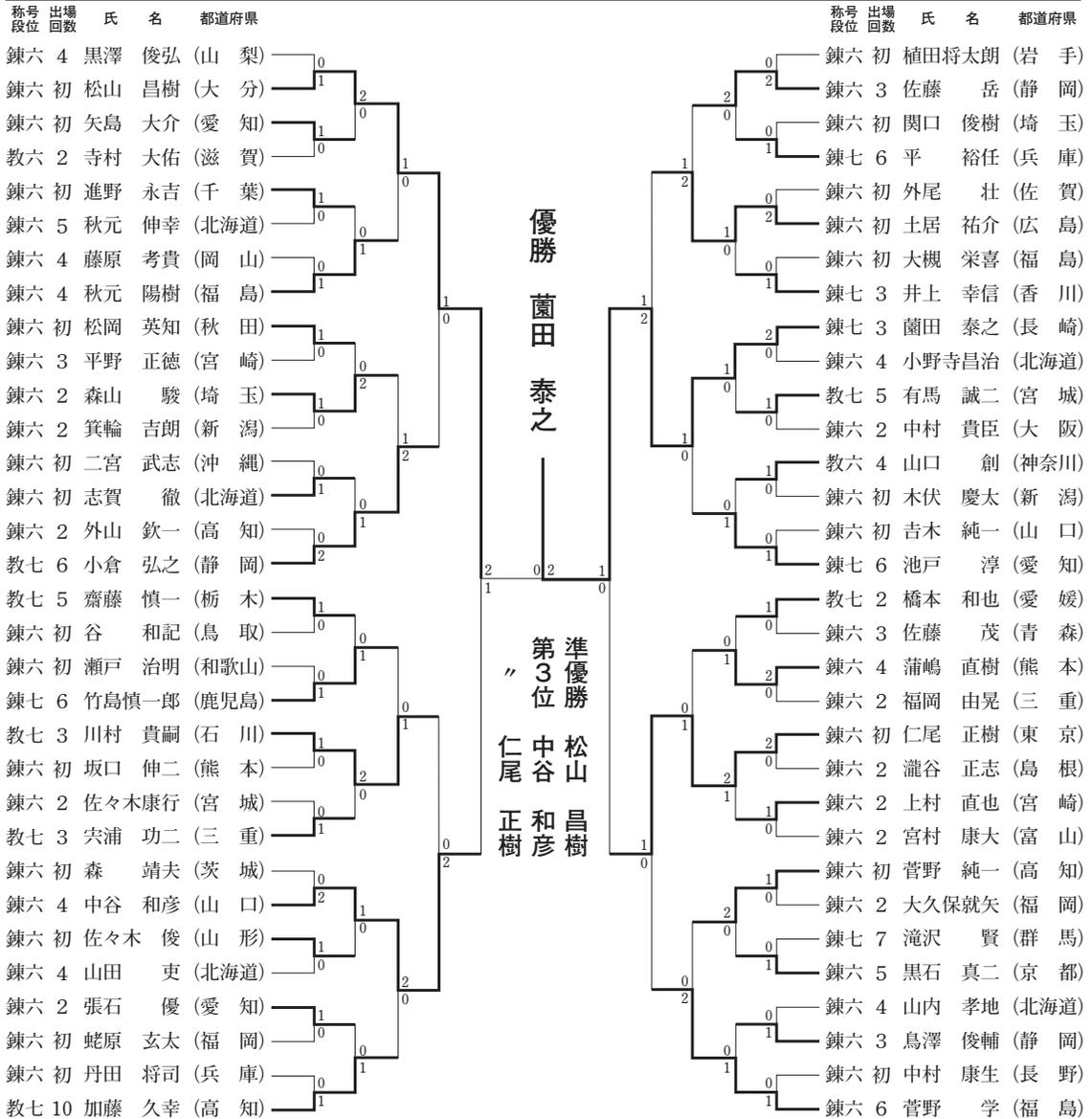
◎選手コメント

◎準優勝Ⅱまつやま たくま 松山昌樹選手（大分）



「全日本選手権には初めて出場したので、まずは初戦を突破することを目標にしていました。この大会では5分間の試合のあとに時間無制限の延長戦があるので、特に体力強化に力を入れて練習を積んできました。練習は同じ部隊の西村健選手（第24回大会準優勝）によく付き合っていました。1回戦は非常に緊張しましたが、2回戦からは楽しく試合に臨もうと決め、チームの仲間とよくコミュニケーションをとりながら気持ちを取りラックスさせました。準決勝まで進むと、ここまで勝ち進んできたなら結果はどうであれ、自分の力を出し切ろうと思えました。今後は、今回の結果で満足するのではなく、強い相手もまだまだたくさんいますので、力をつけて再びこの舞台で良い結果を出したいですね」

第27回 全日本銃剣道選手権大会



優勝 藺田 泰之

準優勝 第3位 松山 昌樹
中谷 和彦
仁尾 正樹



▽3位 仁尾正樹選手(東京)



▽3位 中谷和彦選手(山口)

「今年日本一狙ってたんですけどね。(準決勝では)先に取られましたが、取り返し、まだ時間があつたので落ちていこうと考えるはいいましたが。この大会でも入賞したことがあり、研究される立場になると思いますが、謙虚に取り組んでいきたいです」

「いつも通りの動きができたと思います。準決勝では藺田選手のステツプに合わせないように心掛けていたのですが、相手の方が技量が多かったです。下胴を取られることが多いので、そこを返せるように研究していきたいです」

好評発売中

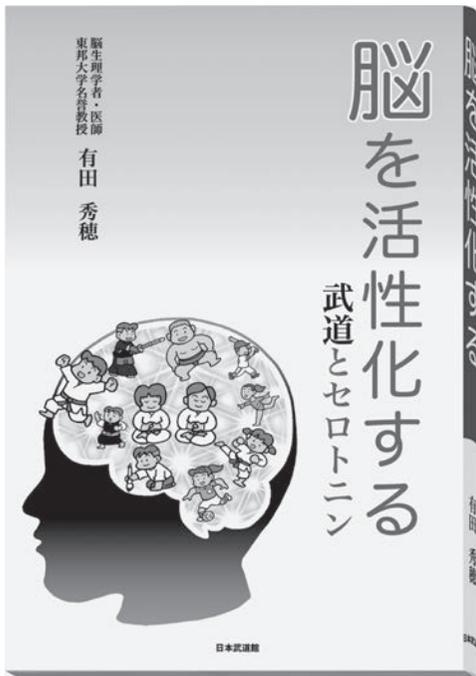
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税



有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」
日本武道館会長 松永 光
東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

	編集・発行 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp	お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ！	TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158
--	---	-------------------------------------	--

日本武道館発行の単行本

武道の全容をこの一冊に集大成！



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

『日本の武道』の英文版(DVD付)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)

武道をわかり易く描いた教養マンガ



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

希代の弓人阿波研造の人物伝



霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

(四六判・上製・320頁)

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説



日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・334頁)

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る



弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

(四六判・上製・272頁)

子どもを育む武道の教育力を詳説



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

武道の文化的・伝統的な事柄を解明



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)

第35回わんぱく相撲全国大会

6年生 倉岡優太 (熊本選抜A) が わんぱく横綱に

5年生 豊田倫之亮 (奄美大島)

4年生 椿 留一 (中条新発田)



6年生決勝 倉岡優太 (左) が山下正清を土俵際まで追い込む



6年生準決勝＝山下（左）が吉岡を押し出す



6年生準決勝＝倉岡（右）が菊田を寄り切る

第35回わんぱく相撲全国大会（共催Ⅱ公益財団法人日本相撲協会・公益社団法人東京青年会議所）は、8月4日、墨田区総合体育館で開催された。大会には全国261地区の予選から勝ち上がった小学4年生から6年生までの「わんぱく力士」総計330名（各学年110名）が出場した。

試合はトーナメント方式で、学年別に個人戦が行われ、横綱1名、大関1名、関脇2名、小結4名を決定する。選手たちはわんぱく横綱の座を目指して熱い戦いを繰り広げた。

小学6年生の部では倉岡優太（熊本選抜A）、小学5年生の部では豊田倫之亮（奄美大島）、小学4年生の部では椿留一（中条新発田）が、それぞれ初優勝を果たし、第35回わんぱく横綱に輝いた。

開会式では本大会名誉顧問である小池百合子東京都知事より「日頃の練習の成果をたっぷり発揮して悔いの残らないよう皆さんの闘いに期待をしております」と挨拶があった。

また、各選手の所属チームを対象に、個人戦のポイントの合計で争われる団体戦が行われ、熊本選抜Aが優勝を飾った。

6年生

ベスト8に名乗りをあげたのは、昨年小5横綱の山下正清（鹿屋）、同関脇の奥田蒼真（大阪城）、さらに吉岡竜大（市川）、児玉颯飛（稲城）、大谷夏希（備前）、菊田流雅（茨城A）、マロー高尙（弘前）、倉岡優太（熊本選抜A）の8人である。

▽準々決勝

吉岡竜大 ○叩き込み 児玉颯飛
先に前に出た児玉を吉岡がいなす。吉岡は再び技を仕掛けてきた児玉を叩き込んだ。

山下正清 ○押し出し 大谷夏希
山下が立合い鋭く飛び出し、大谷を一方的に、押し出した。

菊田流雅 ○寄り切り マロー高尙
菊田は、マローに上手廻しを掴まれないながらも下から押し上げ、そのまま寄り切つて勝利。

倉岡優太 ○寄り切り 奥田蒼真
奥田は体格で上回る倉岡に、体勢を低くして自分優位の体勢になろうとする。しかし、倉岡は右を差し込み、奥田を寄り切つた。

▽準決勝

山下正清 ○押し出し 吉岡竜大
体格は山下が吉岡をかなり上回る。体格差を活かした山下が吉岡に廻しを取らせず、うまくさばいて押し出して勝利。2連覇をかけた決勝へ駒を進めた。

倉岡優太 ○寄り切り 菊田流雅
勢よく飛び出したのは倉岡。菊田をぶちかまして土俵際まで追い込む。対する菊田も押し返して土俵中央へ戻るも、最後は倉岡が廻しを取り、引きつけて寄り切りで勝利。安定した相撲を見せて決勝へ進んだ



6年生決勝＝倉岡（左）が山下を寄り切る

▽決勝

倉岡優太 ○寄り切り 山下正清

右差し手からの攻撃を得意とする倉岡と押し相撲が強みの山下の対戦。本大会最後の取組ということもあり、土俵上は緊迫した空気が流れる。審判の「ハツケヨイ」の掛け声直後、両者はほぼ互角に飛び出す。山下は倉岡に下から押していこうと仕掛ける。対する倉岡も協力なおつ

ついで山下を土俵際へ追い込み、そのまま勢いよく山下を寄り切って試合終了。倉岡が昨年のわんぱく横綱を倒し、見事、初優勝の栄冠を手にした。

【大会結果・6年生】

◎横綱Ⅱ倉岡優太(熊本選抜A)

○大関Ⅱ山下正清(鹿屋)

▽関脇Ⅱ吉岡竜大(市川)

菊田流雅(茨城A)

◎6年生横綱Ⅱ倉岡優太(熊本選抜A)



「優勝できてとても嬉しいです。仲間の応援があつて、自分の相撲を取ることができたので、仲間には感謝しています。今日の試合は寄り切りと押し出しがうまく決まり、自分の相撲ができたと思います。」

決勝ではライバルの山下文くんとこの闘いで非常に緊張しました。しかし、最後のわんぱく相撲で闘えたことが非常に嬉しく、感謝しています。大会には、熊本から祖父が見に来てくれました。祖父は自分のために朝早くに起きて試合を見に来てくれたのです。試合の前には祖父に『前に出る相撲をして絶対優勝を勝ち取るように頑張る』と伝えました。目標は、他の全国大会で負けずにもっと前に入る相撲を追求して優勝を続けていきたいです。将来は大相撲に入って強い力士の方々と勝負し、優勝し、番付を上げていきたいと思っています。」



5年生準決勝＝豊田（上）が竹内を突き落とす



5年生準決勝＝田宮（手前）が押し出しを決める

■ 5年生

準々決勝には、豊田倫之亮（奄美大島）、大田和優（茨城B）、竹内日向（長崎県代表）、園田大登（大阪城）、田宮愛喜（西三河）、竹澤光（こだま）、岡本千太郎（愛知B）、星結仁（五泉さくら）が顔を揃えた。

▽準々決勝

豊田倫之亮 ○押し出し 大田和優 豊田が上手を取り、ジワジワと土

俵際まで押し込み、大田和を押し出した。

竹内日向 ○押し出し 園田大登

園田は竹内に低い姿勢から当たられないよう、強く突っ張る。しかし、竹内はこの攻撃に対し、下から強く押し上げ、園田を押し出して勝利。

田宮愛喜 ○叩き込み 竹澤 光

田宮は勢いよく突っ張りで竹澤を突き放そうとするも、竹澤に引かれて体勢をくずす。しかし、竹澤の足も同時に流れ、ほぼ同体で両者土俵に這うも、竹澤がやや早く、勝負あり。

岡本千太郎 ○送り出し 星 結仁

飛び込んだきた星に対して、岡本は、落ち着いた様子でいなして背後に回り込み、そのまま送り出した。

▽準決勝

豊田倫之亮 ○突き落とし 竹内日向

立合いと同時に両者、頭から当たる。豊田は冷静に相手を見て上から突き落として勝利。わんぱく相撲全国大会初出場・初優勝に大きく前進する。

田宮愛喜 ○押し出し 岡本千太郎

立合い、両者鋭く頭からぶつか

る。田宮はそこからハズ押しして岡本を土俵外まで押し出して勝利。昨年1回戦敗退の田宮が大躍進。田宮は予選から体を器用に使った相撲を展開し、初優勝を目指す。

▽決勝

豊田倫之亮 ○叩き込み 田宮愛喜
 豊田がぶちかまそうと飛び込むが、田宮は体を開いていなす。豊田



5年生決勝＝豊田（上）が叩き込みを決めた

は一瞬足が流れるが、うまく立て直し、体を切り替える。そして、豊田は向かってきた田宮を躲し、叩き込んで勝利。見事、初優勝を飾った。

◎5年生横綱Ⅱ豊田倫之亮

（奄美大島）



「初優勝できて嬉しいです。いつも勝負の時に慌ててしまうのですが、今日は気持ちを落ち着かせて取り組むことを心がけました。決勝前は脇が甘い部分があるので、そこを気をつけてリラックスしていこうと思っていました。将来の目標は一番強い横綱になることです。白鵬のような強い横綱を超えられる横綱になりたいです」

【大会結果・5年生】

◎横綱Ⅱ豊田倫之亮（奄美大島）

○大関Ⅱ田宮愛喜（西三河）

▽関脇Ⅱ竹内日向（長崎県代表）

岡本千太郎（愛知B）

■4年生

小学4年生ベスト8は、椿留一（新発田）、大平真輝（十日町）、宇野恭晟（金沢）、甲斐陽太（延岡）、中村颯斗（さくらえび）、永井陽翔（山形鶴岡）、末川敦喜（練馬区）、佐藤珀呂汎（熊本選抜A）となった。

▽準々決勝

椿 留一 ○寄り倒し 大平真輝

両者激しく立ち合い、左四つに。

最後は椿が激しく寄り、大平必死のうっちゃりをしのぎ、寄り倒す。

宇野恭晟 ○押し出し 甲斐陽太

両者、二転、三転の激しい攻防、最後は宇野が右上手を強く引きつけて、押し出して勝利。

中村颯斗 ○押し出し 永井陽翔

中村は永井の突き放しをうまくさばき、体を入れ替えて永井を押し出した。

末川敦喜 ○寄り切り 佐藤珀呂汎

末川がハッケヨイの掛け声と同時に電光石火のごとく佐藤を突っ張りで追い詰め、最後は相手のうっちゃりをしのぎ、寄り切って勝利。



4年生決勝＝樫（右）が中村を寄り倒す



4年生準決勝＝樫（左）が上手を取ろうとする



4年生準決勝＝中村（左）が末川を叩き込む

▽準決勝

樫 留一 ○寄り切り 宇野恭晟

立合いは互格。樫は宇野を突っ張りから上手を引き寄せて、寄り切った勝利。予選から力強い相撲を見せた樫が決勝へ。

中村颯斗 ○叩き込み 末川敦喜

中村は自分より上背のある末川にぶちかまそうとするが、末川も突っぱってこれをしのごうとした瞬間、バランスを崩し、土俵にはって中村の勝利。落ち着いた試合展開を見せる中村は決勝でどのような勝負を見せるのか。

▽決勝

樫 留一 ○寄り倒し 中村颯斗

体格はほぼ互角。「ハッケヨイ」の掛け声と同時に飛び出したのは樫。力強い突っ張りを素早く繰り出していく。対する中村も体勢を低くし、これを押し返そうとする。その後、両者四つに組んだ瞬間、樫は右上手から中村のまわしをうまく引きつけ、寄り倒して勝利。力のある押し相撲を展開した樫が、横綱の座に輝いた。

◎4年生横綱Ⅱ樫 留一 (中条新発田)



「試合では前に出続ける相撲をしたので、それが優勝に繋がったと思います。前に出る相撲は自分の強みでもあります。決勝の時も無心で、自分の得意な取組を心がけました。好きな力士は貴景勝です。彼の押していく相撲が好きです」

【大会結果・4年生】

◎横綱Ⅱ樫 留一(中条新発田)

○大関Ⅱ中村颯斗(さくらえび)

▽関脇Ⅱ宇野恭晟(金沢)

末川敦喜(練馬区)



好評発売中



神戸学院大学教授 前林清和 著
 (四六判・上製・370頁)

武道における身体と心

指導者必読！ 心身を一体的に鍛え高める武道人間学のすすめ。
 本書は、「近世武芸書」に残された日本の伝統的身心論を読み解き、全人的教育を目指す武道のあり方を提言する著者渾身の一書。

【目次】

- プロローグ 武道に学ぶホリスティックな身体
- 第一章 日本人の身体観の源流—中世—
 - 第一節 武士の覚悟／第二節 禅と悟り／第三節 能楽の稽古
- 第二章 武道の心
 - 第一節 不動心／第二節 武道の悟り／第三節 駆け引き／第四節 目付／第五節 瞑想
- 第三章 武道の気
 - 第一節 気とは何か／第二節 気の歴史と武士／第三節 勝負と気／第四節 天道と心気／第五節 静と気／第六節 達人と気
- 第四章 武道の技と心身
 - 第一節 武道の型／第二節 柳生の技／第三節 武蔵の技／第四節 竹刀打込剣術／第五節 心法重視の型剣術／第六節 柔よく剛を制す／第七節 重／第八節 鍛錬
- 第五章 人をつくる武道
 - 第一節 現代剣道と人間形成／第三節 佐川派大東流の技と修行／第三節 身を処する／第四節 死と生



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ！

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部



団体戦決勝＝石川対熊本（中堅戦）
石川・篠（右）が熊本・山下を寄り倒して優勝を勝ち取った



団体戦優勝＝石川県

第30回全国都道府県中学生相撲選手権大会 石川県が3年ぶり8回目の優勝



会場となった屋外にある靖國神社相撲場



開会式終了後、少年少女武道優良団体の表彰が行われた
(写真は岡崎市相撲教室の表彰)



団体戦準々決勝＝石川対大阪（先鋒戦）
石川・森田（左）が大阪・田崎をはたき込んだ



団体戦準々決勝＝熊本対福岡（大将戦）
熊本・本田（右）が小手投げで勝利

第30回全国都道府県中学生相撲選手権大会（主催＝日本相撲連盟）は7月28日に靖國神社相撲場（東京都千代田区）で開催された。例年会場となっている東京・両国の国技館が東京2020オリンピックに向けて改修工事のため、今回は靖國神社相撲場で実施される運びとなった。

大会は団体戦予選（各チーム3試合）、個人戦軽量級、個人戦無差別級、団体戦決勝トーナメントの順に行われ、中学生相撲日本一をかけて、最高気温32度の酷暑に負けない熱戦が繰り広げられた。

団体戦では、石川県と熊本県が決勝で対戦。石川県は大将を怪我で欠きながらも、2―0で3年ぶり8回目の優勝に輝いた。

個人戦軽量級では、決勝で最上想生（富山）が奥村匠美（栃木）を上手出し投げで降し、初優勝を果たした。

個人戦無差別級では、アルタンゲレル・ソソルフ（鳥取）が高山瞬佑（滋賀）を寄り倒して、外国人初の優勝を成し遂げた。

団体戦

団体戦は3人制で行われた。47チームが予選で各3試合行い、上位16チームが決勝トーナメントに進出した。

▽準々決勝

鳥取	3―0	高知
熊本	3―0	福岡
石川	2―1	大阪
静岡	2―1	栃木

前回優勝の鳥取は、昨年もメンバーであった中堅・成田と大将・ソルフの2名を残し、盤石の相撲で高知を3―0で降して準決勝に進んだ。

全員が100kgを超える熊本は、体格を活かした相撲で福岡を寄せ付けず、準決勝に駒を進めた。

石川は先鋒から2連勝で準決勝進出を決めたが、アクシデントが発生。大将・上田が試合中に肘を負傷し、石川は先鋒・森田、中堅・篠の2名で準決勝に臨むこととなった。

静岡は1―1で迎えた大将戦で、大将・桑原が下手投げで勝負を決めて、辛勝した。



団体戦準決勝＝熊本対鳥取（中堅戦）
熊本・山下（上）は鳥取・成田を突き落とした



団体戦準決勝＝石川対静岡（中堅戦）
石川・篠（右）は執念の押し出しで決勝進出を決めた

篠が低く当たって左を差す。篠は有利な体勢のまま力強く寄り倒して勝負あり。準決勝、決勝と驚異の勝負強さを発揮した石川が3年ぶり8回目の栄冠に輝いた。

土俵際まで押し込む。追い詰められた森田は橋の攻めをいなして体勢を立て直すと、熊本・橋を一気に押し出す。勝負の中堅戦、立合いで石川・篠が低く当たって左を差す。篠は有利な体勢のまま力強く寄り倒して勝負あり。準決勝、決勝と驚異の勝負強さを発揮した石川が3年ぶり8回目の栄冠に輝いた。

▽準決勝
熊本 2-1 鳥取
橋 龍生○上手い投げ
山下昇介○突き落とし 館野 隆
本田豪太郎 寄り切り○アタックシムル
先鋒戦は、熊本・橋が鳥取・館野の厳しい攻めを凌ぎ、上手出し投げで勝利。中堅戦は立合いから鳥取・成田が熊本・山下を圧倒、土俵際まで押し込んでいく。しかし、山下が上手く体を開いて体勢を立て直し、成田を突き落として決勝進出を決めた。

石川 2-1 静岡
森田陽彦○寄り倒し 菅原悠翔
篠 侑磨○押し出し 内田京汰
上田剛毅 不戦勝○桑原哲平
先鋒戦、石川・森田は右を差し、そのまま静岡・菅原を豪快に寄り倒して中堅に繋ぐ。勝負がかかった中堅戦、石川・篠は低く当たって相手の懐に潜ると、20kg以上大きい静岡・内田を一気に押し出して執念の勝利。3年ぶりの優勝を目指し、大将・上田を欠いた石川が2名で熊本に挑む。



団体戦決勝＝石川対熊本（先鋒戦）
石川・森田（右）は熊本・橋を押し出して中堅に繋いだ

▽決勝

石川 2-1 熊本
森田陽彦○押し出し 橋 龍生
篠 侑磨○寄り倒し 山下昇介
上田剛毅 不戦勝○本田豪太郎

◎団体戦優勝Ⅱ

石川県・川口大輔監督

「準々決勝で大将の上田が負傷して、彼のためにも残りの2人が頑張りました。チーム全員が、相手に合わせて小手先で取る相撲ではなく、積極的に攻める相撲が持ち味です。それを全て出し切れたことが、結果に繋がったのだと思います」

【大会結果・団体戦】

◎優勝Ⅱ石川県

○準優勝Ⅱ熊本県

▽3位Ⅱ大阪府

鳥取県



個人戦軽量級・決勝=最上（右）が上手出し投げで優勝した



個人戦軽量級・準決勝=奥村（左）の豪快な掛け投げ



個人戦軽量級・準決勝=最上（左）が寄り倒した

個人戦軽量級

軽量級（75kg未満）には各都道府

県の代表47名が出場し、トーナメント方式で争われた。

準々決勝には満上颯悟（佐賀）、勢村颯汰（福岡）、最上想生（富山）、梶浦傘太（兵庫）、鶴大陸（京都）、竹中真（高知）、奥村匠美（栃木）、阿部楓河（山形）が勝ち進んだ。

▽準々決勝

満上颯悟 ○上手投げ 勢村颯汰

最上想生 ○押し出し 梶浦傘太

鶴大陸 ○上手出し拵 竹中真

奥村匠美 ○掛け投げ 阿部楓河

満上は立合いから左上手をしっかりと取り、上手投げで勝利した。

最上は低い体勢から、一気に梶浦を押し出した。

鶴は梶浦の厳しい攻めをいなし、上手出し投げで勝負を決めた。

奥村は左足を相手の両脚の間に入ると、掛け投げで勝利した。

▽準決勝

最上想生 ○寄り倒し 満上颯悟

奥村匠美 ○掛け投げ 鶴大陸

最上対満上の対戦。最上は右を差して有利な体勢になると、満上に何もさせずに寄り倒した。

奥村対鶴の対決は、奥村が左手を相手の背中に回し、またも豪快な掛け投げで決勝に勝ち進んだ。

▽決勝

最上想生 ○上手出し拵 奥村匠美

最上は立合いで低く当たって右上手を取る。負けじと奥村も押し返すが最上は右にいなして、右手で廻しを掴み、上手出し投げで勝利。最上は嬉しい初優勝を手にした。

◎個人戦軽量級優勝

最上想生（富山）



「難しいことを考えずに、とにかく腰を低く、脇を締めて前に出る相撲を初戦から心がけました。今日は120点で張せずに戦えました。今日は120点です」

【大会結果・個人戦軽量級】

◎優勝 最上想生（富山）

○準優勝 奥村匠美（栃木）

▽3位 満上颯悟（佐賀）

鶴大陸（京都）



個人戦無差別級・準決勝=ソソルフ（左）が外掛けで決勝に進出



▶個人戦無差別級・準決勝=高山（右）が成田を寄り切った

個人戦無差別級

無差別級は団体戦予選3試合で2勝以上の選手68名によって、トーナメント方式で競われた。

ベスト8には、アルタンゲレル・ソソルフ（鳥取）、小宮山翔海（東京）、篠崎颯太（茨城）、東亮佑（北海道）、成田力道（鳥取）、磯友樹（栃木）、高山瞬佑（滋賀）、相野祥吾（千葉）らが名を連ねた。

▽準々決勝

アルタンゲレル○押し出し 小宮山翔海
 篠崎颯太 ○寄り切り 東 亮佑
 成田力道 ○上手投げ 磯 友樹
 高山瞬佑 ○引き落とし 相野祥吾

ソソルフは動き回る小宮山に對して冷静に對応し、押し出して準決勝に進出。

篠崎は右四つから相手に何もさせずに、そのまま寄り切った。

成田は土俵際まで追い込まれるも、磯の攻めをいなして右上手を掴み、上手投げを決めて勝利。

高山対相野の準々決勝は、高山が相野の突っ張りに對して上手く引き落とした。

▽準決勝

アルタンゲレル○外掛け 篠崎颯太
 高山瞬佑 ○寄り切り 成田力道

準決勝第1試合はソソルフ対篠崎による対決。立合いでソソルフは低く当たって、右手で篠崎の後ろ廻しを掴む。ソソルフはそのまま土俵際まで篠崎を押し込んで、最後は右外掛けで篠崎を降した。

高山対成田の対戦は、立合いで高山が激しく突っ張る。成田は高山の厳しい攻めに対して左に開いていなそうとするが、高山は成田を逃さない。高山は左手で前禰を掴んで一気に寄り切った。

▽決勝

アルタンゲレル○寄り倒し 高山瞬佑

ソソルフは立合いで左に変化して左上手を取る。高山は体勢を立て直して負けじと左下手を取りに行くがソソルフは許さない。ソソルフはさらに右を差して有利な形をつくると、高山を押し込んでいき、寄り倒した。

モンゴル出身のソソルフは念願の初優勝を飾り、本大会で初の外国人優勝者となった。

◎個人戦無差別級優勝Ⅱ
アルタンゲレル・ソソルフ（鳥取）



「この大会で、外国人として初めて優勝することができて、とても嬉し

いです。（同じ鳥取県チームの）成田が準決勝で負けてしまい、同じチームとして一緒に頑張ってきたので、できれば決勝で対戦したかったですね。

同じモンゴル出身で交流のある狼雅先輩（幕下五十七枚目。今年の春

場所で序二段優勝）が一昨年のインターハイで優勝し、初の外国人高校横綱となりました。その時に先輩から「お前も一緒に日本一になろう」と励まされ、その言葉を力にして、ここまで頑張ってきました」

【大会結果・個人戦無差別級】

◎優勝Ⅱアルタンゲレル・ソソルフ（鳥取）

○準優勝Ⅱ高山瞬佑（滋賀）

▽3位Ⅱ篠崎颯太（茨城）
成田力道（鳥取）



個人戦無差別級・決勝＝アルタンゲレル・ソソルフ（奥）が寄り倒して初優勝を飾った

日本武道館発行 単行本のご紹介

相撲
その歴史と技法

東京大学大学院
法学政治学研究所教授

新田 一郎 著



四六判・上製・422頁・2,400円＋税

相撲の成立から現状を経て将来像へ

相撲の成立から、現代相撲の基本的な条件が整うまでの歴史の概略をたどり、相撲技術の歴史的な変遷について概観する。

「相撲はどこから来たのか、相撲とは何か、相撲はどこへ行くのか」を問う著者渾身の一書。



好評発売中

漫画家
別府大学客員教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！



B5判・並製・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子どもも読んで楽しく、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
 船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
 園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鶴沢尚信(銃剣道)

編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



(B5判・236頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部

第54回 全国道場少年剣道大会



決勝・先鋒戦＝如水館・森（右）が面を決めて二本勝

<小学生の部>

福岡如水館（福岡）が 5年ぶり7度目の優勝

7月29日・30日に、日本武道館で第54回全国道場少年剣道大会（主催 全日本剣道道場連盟、後援 日本武道館ほか）が開催された。大会は小学生の部558チーム（初日）と中学生の部453チーム（2日目）の2部門が行われ、優勝を競った。小学生の部では福岡如水館（福岡）が2度目の、中学生の部では九好会（熊本）が、5度目の優勝を遂げた。

試合は5人制の団体戦、各試合場トーナメント方式で行い、試合時間は小学生が2分、中学生は2分30秒の三本勝負で行われた。

■小学生の部

●準決勝

準決勝に勝ち上がったのは、練兵館（栃木）、浦安本部道場（千葉）、福岡如水館（福岡）、山梨健心館（山梨）の4チーム。そこには昨年3度目の優勝を果たした昭島中央剣友会の姿はなかった。

準決勝第1試合は練兵館と浦安本部道場の顔合せ。まず、先鋒は練兵館の藤田が面と小手を決めて勝利するも、次鋒戦で浦安本部道場の木村が面を決め、勝者数で追いつく。し



決勝・先鋒戦＝如水館・森（左）が胴を決める

かし、中堅戦で練兵館の福地が面を、続く副将戦で練兵館の立木が面と胴を決めて、それぞれ勝利。その後の大将戦は引分に終わり、練兵館が3―1で決勝戦へ駒を進めた。

準決勝第2試合は福岡如水館と山梨健心館の対決。先鋒戦は1回戦からここまで無敗の如水館・森が面・小手を決め、勝利。次鋒戦は引き分けるも、如水館は中堅戦で小野が面を、副将戦では白地が面を決め、それぞれ一本勝。福岡如水館が3―0で勝利を収め、決勝戦へ。

● 決勝

福岡如水館	2―1	練兵館
先鋒 森 大颯ドメー		藤田悠叶
次鋒 小野和奏	×	中野 有
中堅 矢野祐紀	×	福地史佳
副将 白地 巧	×	立木 怜
大将 林 晃毅	―メ	大河内靖太

決勝戦は5年ぶり7度目の優勝を狙う福岡如水館と平成8年以来的の優勝がかかる練兵館の対戦。

先鋒戦、如水館は準決勝で二本勝と好調な森が登場。森は序盤から冷静に技を仕掛ける。試合開始1分、

森は練兵館・藤田が面に来たところを素早く返して胴を決め、一本を奪う。そのまま勢いに乗った森は試合開始1分30秒後、力強い面を決め、勝利。その後、次鋒戦から副将戦までは両者有効打突はなくそれぞれ引分となり、如水館が一步リードしたまま運命の大将戦へ。

大将戦は如水館・林対練兵館・大河内。なんとか代表戦に持ち込みたい大河内は序盤から林を激しく攻め立てる。試合開始から1分、林が小手に来るところを大河内が一瞬早く面に乗り、一本。このまま勢いに乗りたい大河内。しかし、守り切りたい林は大河内の技を捌いていき、そのまま終了。福岡如水館が優勝を決めた。

◎優勝Ⅱ福岡如水館・池田健二監督
「昨年は2位という結果でした。そこから1年、基礎体力作りからみなどで頑張つて、優勝するんだという気持ちで試合に挑みました。」

選手たちには、チームで試合をするということは一本書を取った、取られたに関係なく、自分勝手な試合をせず、二本負をしないように、あせらず、一本負でもいいから後ろに繋

ぐということを伝えてきました。だからこそ、優勝に繋がったのだと思います」

◎優勝Ⅱ福岡如水館・森大颯選手
「優勝できて嬉しいですが、ここで気を抜くのではなく、次の試合に向けて、努力していきます。来年は中学生になるので、剣道と勉強を上手く両立し、結果に繋がりたいです」



小学生の部・優勝＝福岡如水館





決勝・副将戦＝九好会・福岡（左）が面を攻める

<中学生の部>

九好会(熊本)が5度目の優勝

■中学生の部

●準決勝

準決勝に勝ち上がったのは、九好会（熊本・昨年3位）、昭島中央剣友会（東京・昨年準優勝）、福岡如水館（福岡・昨年3位）、東松館道場（東京・昨年優勝）の4チーム。昨年と同じ顔ぶれになった準決勝戦に注目度も高まる。

準決勝第1試合は福岡如水館と東松館道場の対決となった。先鋒・次鋒戦は引分に終わる。試合が動いたのは中堅戦。東松館・浦井が如水館・溝口に面を決め、そのまま一本勝となる。しかし、副将戦で如水館・森が面を決めて一本勝し、試合はイーブンのまま、大将戦へ。

大将戦は如水館・林と東松館・荒木の対戦。有効な技はなく、大将戦が終了。勝負は代表者戦へ持ち越された。開始の合図直後、森が胴を打つも旗は一本しか上がらない。決勝進出がかかる闘いでもあり、両者は激しく剣を交える。決着がついたのは開始から4分10秒後、森が鏝（つぼせ）り合いから一歩引いた荒木に鋭い面を決め、勝利。昨年の王者を破り如水



準決勝・代表者戦＝如水館・林（手前）が面を決める



決勝・次鋒戦＝九好会・荒木（右）の胴

館2―1で決勝へ。

準決勝第2試合は九好会対昭島中央剣友会。先鋒戦は引分に終わる。

続く次鋒戦、九好会・荒木が小手を決め、そのまま一本勝。中堅戦は引き分け、副将戦へ。まず、勝負を仕掛けたのは九好会・福岡。福岡が素早く面を決める。しかし、その後、昭島・吉田も胴を決め、副将戦は引分に終わる。九好会がリードしたまま迎えた大将戦、昭島・藤田が何とか取り返そうと猛攻を仕掛けるも、九好会・高島は藤田の技をうまく捌く。そのまま時間となり試合終了。2―1で九好会が勝利し、2年ぶりに優勝を狙う。

● 決勝

九好会 2―1 福岡如水館

先鋒 河野颯斗 × 池田胡春

次鋒 荒木 悠 ドー 萩尾 琉

中堅 吉岡慶治郎 × 溝口航太郎

副将 福岡勇馬 メー 森 大翼

大将 高島壮右馬 ーメ 林 尚輝

決勝戦は昨年3位同士の九好会と福岡如水館の対決となった。先鋒戦は引分となる。次鋒戦、萩尾が面を仕掛けたところに九好会・荒木が返して胴を打ち込み、一本。その後、

萩尾も負けじと攻め立てるが、荒木貴重な一本を守り切って終了。九好会が一歩リードとなる。続く中堅戦は両者決め手を欠き、引分に。副将戦は九好会・福岡と如水館・森の対決。勝負が動いたのは中盤、両者が鏝競り合いから互いに引き面を打ち込んだ。判定は九好会・福岡に旗2本。あとがなくなった森は果敢に技を仕掛けるが、攻め切ることができず試合終了。この時点で九好会の優勝が決定した。大将戦では、如水館・林が面を決めて一矢報いる。九好会が2年ぶり、5度目の優勝を果たした。

◎優勝 九好会・メー 司監督

「一昨日、全国中学校体育大会の予選を突破したばかりだったので、本人たちがどれだけ気持ちが悪く落ち着いているか不安がありました。一つ一つ勝つことができました。全体を通して非常に厳しく、気を抜けるところがありませんでしたが、逆にそれがよかったのかなと思います」

◎優勝 九好会・福岡勇馬選手

「優勝できてとても嬉しいです。この試合で勝つことを目標にみんなが努力してきました。一本一本の技を

大切に打つということを練習の中で心がけてきました。来月の全国中学校体育大会でも優勝できるように頑張ってください」



中学生の部・優勝＝九好会

【大会結果】

■ 小学生の部

◎優勝 福岡如水館（福岡）

○準優勝 練兵館（栃木）

▽第3位 浦安本部道場（千葉）

山梨健心館（山梨）

■ 中学生の部

◎優勝 九好会（熊本）

○準優勝 福岡如水館（福岡）

▽第3位 東松館道場（東京）

昭島中央剣友会（東京）

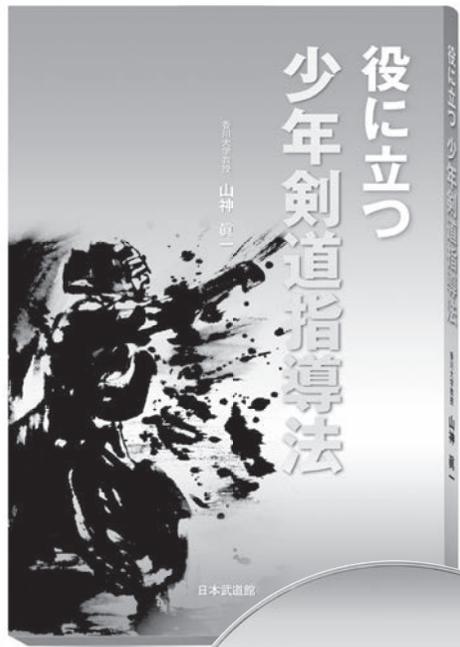
山神眞一 著 (香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・256頁・DVD付・本体2400円+税

目次

- 第一章 一眼〜子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声
- 第二章 二足〜少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る
- 第三章 三胆〜指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意
- 第四章 四力〜技の力を学ぶ
剣道のアイスブレーキング／礼法について／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しと段階的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方
- 第五章 残心
海外での剣道事情／中学校における剣道授業

あとがき

編集・発行 公益財団法人 日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

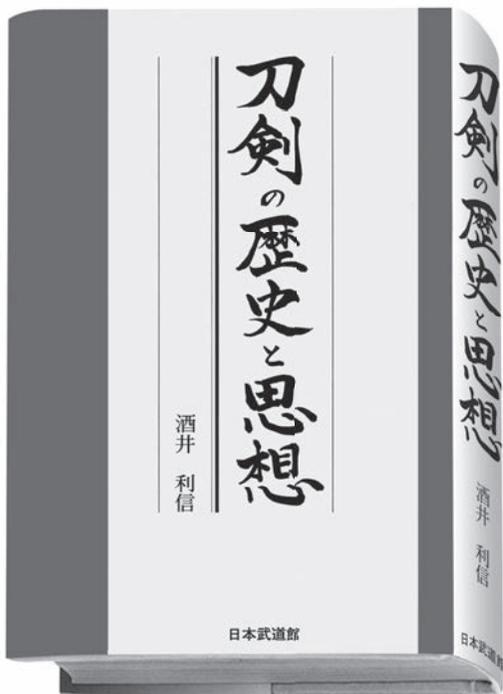
お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ!
 TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著
四六判・上製・346頁・本体2400円十税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か―



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話・平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

終章	「稽古照今」
序章	探求の旅をはじめににあたって
第二章	刀剣の歴史
第三章	刀剣思想の源流
第一節	古代中国の宝剣伝説 太阿の劍
第二節	干将莫耶の宝剣伝説
第三節	高祖の斬蛇劍
第四節	道教と劍
第五節	古代朝鮮の刀剣思想
第一章	神話的イメージの形成
第一節	神話的世界の形成と劍神の誕生
第二節	天より降る劍 節靈劍
第三節	天地を繋ぐ劍 草薙劍
第三章	信仰のなかの刀剣思想
第一節	記る劍 祀られる劍
第二節	辟邪の呪劍
第三節	うけいの呪術と劍
第四節	修験道と劍
第四章	中世における刀剣思想
第一節	三種の神器の不思議
第二節	「平家物語」にみる三種の神器
第三節	「太平記」が語る草薙劍像
第五章	近世剣術における刀剣思想
第一節	劍術伝書に語られる日本神話
第二節	新當流にみる靈劍の技術
第三節	示現流にみる心の利劍
第四節	近世剣術における刀剣思想の展開
第六章	近代以降の刀剣思想
第一節	近代以降の刀剣思想
第二節	古代と現代を繋ぐ刀剣
終章	鹿島神宮日本刀奉納鍛錬

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

柔道教室



井上康生男子監督が見事な内股を披露

2019 世界柔道選手権東京大会直前イベント

文京シビック柔道教室 開催

2019世界柔道選手権東京大会（8月25日～9月1日）の開幕を直前に控えた8月6日、文京区シビックセンター地下2階「区民ひろば」において、直前イベント「文京シビック柔道教室」が開催された。

当日は、井上康生全日本柔道男子監督と増地克之全日本柔道女子監督が成澤廣修文京区長と対談を行った。また、両監督による柔道場以外では初となる公開柔道教室が開かれた。

この日は、世界柔道選手権東京大会に向けた全日本柔道男子強化合宿（8月1日～6日・宮崎県）が行われた九州を台風8号が直撃。その影響から井上康生全日本柔道男子監督の到着が遅れ、5分遅れで「文京シビック柔道教室」がスタートした。

この日集まった子どもは総勢16名（柔道未経験者2名を含む）で、うち10名が熊本県玉名市から参加。飛行機が欠航し、新幹線で6時間かけて会場入りした。他の6名は文京区役所が公募した。

総合司会を松山三四六氏が務め、井上康生監督と増地克之全日本柔道女子監督が成澤廣修文京区長との対談を行った。成澤区長が「『いだてん』という大河ドラマが放送されています。嘉納治五郎先生が初めてオリンピック日本代表に選出した金栗四三選手の出身地が熊本県玉名市

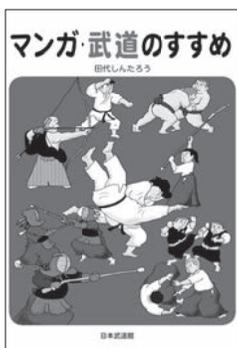
で、今回はその子どもたちに来てもらいました」と玉名市からの参加の経緯を説明。また、成澤区長から代表選手について訊かれると、井上・増地両監督は「選手達はこころで非常に良い状態で調整ができています。来年のオリンピックに向け、今回の世界選手権での闘いが重要になってきます。選手の活躍を見守るとともに非常に楽しみにしています」と心境を語った。

トークショーの中で子ども達から「オリンピックに出場した時の気持ちには？」と質問された井上監督は次のように答えた。

「5歳から柔道を始め、目標だった日本代表になった時の喜びは今でも覚えています。金メダルを目標に努力し、自分の夢を信じ、日々の練習に取り組み、金メダルを取れたときは格別に嬉しかったです。しかしオ

マンガ・武道のすすめ

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一
吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！

B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



トークショーは終始和やかな雰囲気で行われた
(左から井上康生男子監督、増地克之女子監督、成澤廣修文京区長)



「みんなで井上監督を抑えるぞ！」

リンピックが全てではありません。人生においてはあくまでも通過点に過ぎません。金メダルを取ることは重要で大切なことですが、さらに大切なのは、その経験を人生にどう活かしていくかということです。勝ち負けだけではなく、柔道を通じた成長を期待します」

引き続き、柔道教室に移り、井上監督が全日本強化合宿で行う準備運動を紹介した。その後は井上監督と増地監督の得意技である「内股」と「大内刈」がそれぞれ披露された。子ども達は、全日本の監督から直々に技の解説や指導を受け、嬉しそうな表情を見せた。

また寝技抑込ゲームでは、子ども達が3人で掛かり、監督から「一本」を奪うと観客の大きな歓声が文京シビックセンター内に響き渡った。井上・増地両監督は一番を控えている代表監督であることを感じさせないほどリラククスしていた。

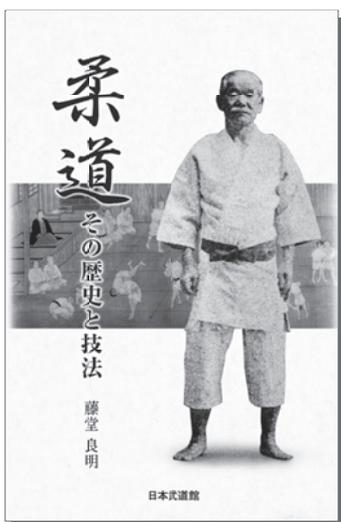
最後に井上監督が「私自身が子どもの時に一流の選手たちと触れ合うことで、大きなエネルギーをもらいました。今回のイベント開催の意味は、今、指導者の立場になって自分の経験を活かし、アドバイスができたらという思いからです。柔道の裾野が広がるようにさらに努力をしていきたいと思えます」と述べた。

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学名誉教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p> <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選手権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p> <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>
--	--	--

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

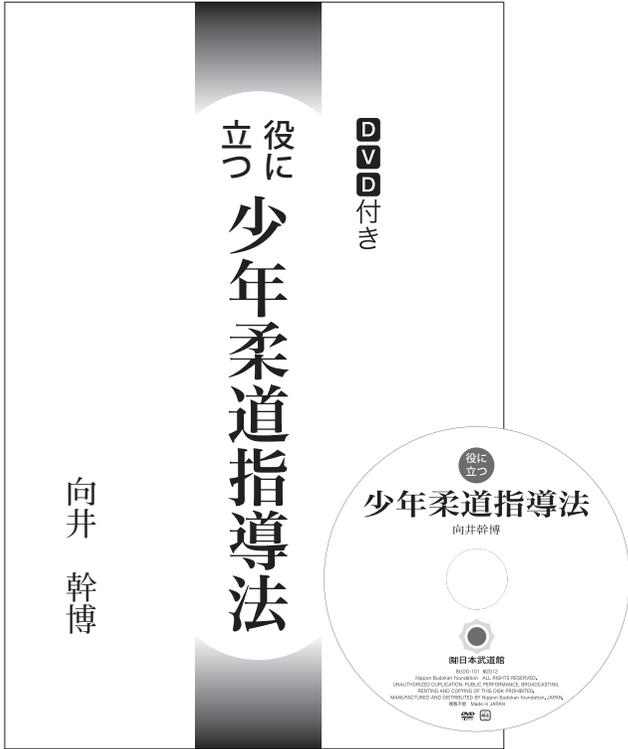
お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著

役に立つ
少年柔道指導法



A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

- 〈目次〉
- 第1部 解説編
 - 第一章 少年柔道は柔道指導の原点
 - 第二章 基本動作の指導
 - 第三章 技の指導
 - 第四章 教育の中の柔道
 - 第五章 指導の工夫
 - 第六章 少年規定の変遷と問題点
 - 第七章 柔道の安全指導
 - 第八章 東日本大震災への講道館の対応
 - 第2部 実技編
 - 第九章 少年柔道の未来のために
 - 第一章 礼法の指導
 - 第二章 受け身の指導
 - 第三章 基本動作の指導
 - 第四章 トレーニング法の指導
 - 第五章 柔道の練習法
 - 第六章 投技の指導
 - 第七章 固技の指導

編集・発行 日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ！

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

2020年東京オリンピック・パラリンピック練習会場

日本武道館 中道場が完成



日本武道館中道場棟は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に伴う日本武道館の増改修工事の一環として、昨年7月より着工し、新設された（設計Ⅱ山田守建築事務所、施工Ⅱ竹中工務店）。オリンピック・パラリンピック開催時には、柔道、空手競技の選手の練習会場として使用される。

デザインは、1964年建設の日本武道館の設計者・山田守氏の様式を踏襲。かつ景観の調和や機能性・安全性などを考えた設計となっている。地上1階・地下2階の3階建てで、地下2階に中道場を設置。40畳の広さの練習会場となっており、本館大道場への連絡通路を設けている。1階には開放感がある食堂と、「切り替えトイレ」（仕切り位置を変えて男女の収容比率の変更が可能。男女トイレ22箇所、多目的トイレ4室）を有する。

8月25日から東京オリンピックのプレ大会として開催される2019年世界柔道選手権東京大会で初めて供用され、続いて同じくプレ大会として実施されるKARATE1プレミアリーグ2019東京大会でも供用される。その後、9月から来年7月にかけて大道場の改修を経て、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を迎える予定である。

7月26日と29日の2日にわたって中道場棟の内覧会が関係者を集めて行われたので、その模様を報告する。



7月26日の内覧会では、はじめに三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶を行った。

「昨年から日本武道館の施設課が中心となって準備を行い、山田守建築事務所設計のもと、竹中工務店による施工によって、恙無く完成いたしました。中道場は末長く使用されることでしょうか。関係者・職員の皆さんもすっかりとご覧ください」

続いて、宮原浩輔山田守建築事務所代表取締役社長が中道場棟の概要を説明した。

「2020年東京オリンピック・パラリンピックは、日本武道館の大道場で競技が行われるわけですが、それに伴う練習会場を別棟で建設することになりました。建設にあたっては、新たに敷地を拡張していただきました。基本的には地下2階の練習会場のための棟ですが、地上部には、トイレを充実させ、明るい場所には、食堂などを設けております」

細田英一竹中工務店東京本店次長・作業所長より、施工にあたっての所感が述べられた。

「おかげさまで、無事に仕上げることができました。これから皆様に内

覧いただいて、今後の盛んな使用によって中道場に魂を吹き込んでいただければと思います」

内覧会では、瀧澤英明竹中工務店作業所工事長誘導のもと、関係者と職員は宮原山田守建築事務所代表取締役社長の説明に耳を向けながら各所を熱心に見て回った。

最後に、山田守氏の孫娘であり日本武道館についての漫画を建設関係の機関紙に連載中のY田Y子氏が挨拶を行った。

「内覧会にお招きいただき、感謝申し上げます。山田守のテイストを随所に引き継いでいただき、なおかつ日本武道館の建設当時にはなかった新しい部分もありました。山田守の精神かつ日本武道館の精神というものを中道場から感じ取ることができました。感動いたしました」



オリンピック・パラリンピック終了後、中道場は各種武道大会での練習会場としての利用が予定されており、日本武道館の利便性向上が益々期待される。また、地上1階の切り替えトイレと食堂は一般の公園利用者も利用可能となっている。

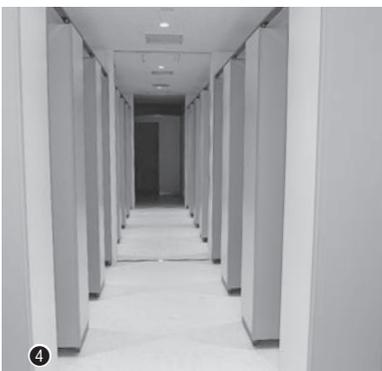


①中道場＝地下2階にある練習会場。地下1階まで吹抜けになっており、400畳の広さをもつ。床は檜の集成材、側面は厳選した杉の無垢板を使用。赤味と白味を強調している。地下1階には点検通路を設置。西側には武道憲章、北側には神棚、日章旗、日本武道館旗を設置予定

②食堂＝外に面したエリアに設置。屋外にはゆったりとしたスロープを設けている。オープンカフェとして催事以外の公園利用者も利用可能

③会議室＝およそ240㎡の広さ。間仕切によって3部屋に分割可能で様々な規模のセミナーや催事に対応できる

④切り替えトイレ＝トイレを拡充。2カ所の仕切り板によって男女のトイレの箇所数を切り変えられる。催事に合わせ男女トイレの比率変更が可能





⑥



⑦



⑧



⑤

⑤ 荷物用エレベーター＝積載量は5 t。1階から地下2階まで通じる大型のエレベーター。隣が中道場、備品倉庫となっており、連絡通路を使用すれば、直接、大道場への搬入・搬出が可能となる

⑥ 備品倉庫＝畳等の収納倉庫。クレーンが設置してあり、大幅に収納力と利便性が向上した

⑦ 地下連絡通路＝中道場と本館との連絡通路。オリンピック・パラリンピックでは、選手・関係者の移動ルートとして使用される。本館地下2階大道場で火災が発生した場合は、連絡通路を通じて中道場棟に避難することも可能

⑧ 中道場の看板＝書家・新井光風先生の揮毫の模様

マンガ・武道の偉人たち



マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎(柔道)、高野佐三郎(剣道)、阿波研造(弓道)、
双葉山(相撲)、船越義珍(空手道)、植芝盛平(合気道)、宗道臣(少林寺拳法)、
園部秀雄と三田村千代(なぎなた)、鶴沢尚信(銃剣道)

ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp> インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

好評発売中

平法

天真正伝香取神道流 師範

大竹利典 著

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

序章	香取神宮御出緒
第一章	歴史篇
第二章	経津主大神の真伝、 「天真正伝香取神道流」
第二章	修行篇
第一節	入門
第二節	林先生に師事
第三節	香取神道流最初の異国の門弟
第四節	流祖生誕六百年記念祭
第三章	技術篇
第一節	剣術
第二節	居合術
第三節	棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第四節	柔術
第五節	忍術
第四章	軍学兵法篇
第一節	遁甲術
第二節	刀剣と密教
第五章	思想篇—全ての修行者へ—
第一節	修行者の心得
第二節	兵法は平法なり —平和を願う偉大なる教え—



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究者
横瀬 知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

中国青年メディア関係者代表団が来館



外務省が推進する対日理解促進交流プログラム「JENESY2019」の一環として中国の青年メディア関係者が来日し、7月22日、一行29名が日本武道館に来館、交流を行った。

「JENESY2019」とは、日本とアジア大洋州の各国・地域との間で、対外発信力を持つ人材を招聘し、日本の政治、社会、文化等に関する理解促進を図り、日本の姿勢や魅力について積極的に理解してもらい、日本の外交基盤を拡充することを目的とした企画である。

一行は日本武道館の歴史・事業と東京2020オリンピック・パラリンピックについての取り組みを三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長から説明を受けたあと、大道場や、新設された中道場など施設の見学を行い、日本武道館・日本武道への理解を深めた。

中国青年メディア代表団は日本の市民との親睦や日本の社会・歴史・文化等に関連する施設を参観し、日本の社会に関する視察、交流、取材を行い、日本への多面的な理解と日中両国の友好を促進する目的により、招聘訪日した。

本交流事業の日本武道館訪問は午後1時から日本武道館大会議室で始まった。まず、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長と日本武道館出席者がそれぞれ紹介され、本交流事

●日本武道館の歴史と事業

業の説明があった。

挨拶のあと、三藤常任理事より日本武道館の歴史と事業について説明が行われた。参加者たちは熱心に耳を傾け、記録に残そうとペンを走らせている者もいた。参加者は中国各地から多岐に亘っており、日本武道館の歴史や武道の現状をより深く理解しようと努めている姿が見られた。

○日本武道館の歴史・事業と2020東京オリンピックに向けた取組（説明：三藤常任理事）



「日本武道館は55年前、1964年に建設されました。収容人数は約14000人強で、来年開催される2度目の東京オリンピックで柔道と空手道、またパラリンピックの柔道の競技会場となります。」

日本武道館では主に青少年の健全育成を目的に、「文武両道」の観点から武道と書道の普及振興事業に取り組んでいます。

日本では、今から8年前、教育基本法が改正され、全国一万余校の中学校で武道が正課の科目として必修となりました。毎年約100万人の中学生が武道を学習しています。非日常的な運動で殺傷性のある武道には、技を教わるための指導者が必要です。ですから、日本武道館では指導者教育に力を入れています。毎年、

全国約100カ所で指導者研修会を行い、約5000人の参加者を集めて実施しています。このように日本武道館は日本の歴史・風土に育まれた武道を奨励する公益財団法人として55年間の歴史を刻んできました」

●施設見学

概要説明のあと、参加者たちは施設課職員の案内のもと、日本武道館の施設見学を行った。始めに大道場へ向かった一行は2階から内部を見学し、施設課員の説明に対して熱心に質問をし、同日開催されていた東京少年柔道・剣道錬成大会の様相を真剣な眼差しで見ている。

大道場を後にした一行は、2階の南側バルコニーに移動し、新設された中道場を見学した。一行は歴史のある大道場と新設の中道場を見学し、日本のランドマークとしての日本武道館の歴史的な存在意義を肌で感じ取ることができたのではないだろうか。

その後、一行は大道場の正面玄関前に移動し、外観の見学を行った。正面玄関に掲げられている正力松太

郎初代会長の揮毫による「武道館」の看板に一行からは感嘆の声が上がった。有名な看板と正面玄関からの景観を記念に残すべく、熱心にか



大道場内を見学する参加者たち

メラのシャッターを切ったり、記念撮影を行ったりした。

●質疑応答

施設見学を終え、再び大会議室に戻った一行はこれまでの説明や施設見学を踏まえ、三藤常任理事へ質問を行った。

Q 武士道精神は現代の日本人の生活や日本人の行動にどのような影響を与えていますか

A 「武士道は日本人の背骨を形成していると思います。日本は非常に安全で信頼できる国であると国際的に評価を得ています。また、日本人は勤勉だと言われます。これは、日本人の根本に礼儀正しさや相手を大事にする武士道精神があるからだと思います」

Q 中学校で武道を経験している数は何人くらいいるのでしょうか

A 「今から8年前に全国の中学校で武道が必修化となり、毎年、1学年約100万人が武道経験者となります。必修化によって100年後は日本人のほとんどが武道を経験するという時代が来ます」

Q 武道を始める年齢はだいたい何歳くらいからなのでしょう

A 「本日行われている柔道・剣道大会には7歳〜15歳の子供が参加しています。早い人では、5歳くらいから始める子どももいます」

最後に、記念品の交換と記念撮影が行われ交流事業は成功のうちに幕を閉じた。

●参加者インタビュー

▽豊佳佳さん（中国スポーツ報業総社スポーツ産業部記者）

「このような伝統的な会場を見せていただき、本当に感謝しています。今回の訪問は非常に意義のあるものでした。武道館が行っている多くの事業を聞き、大変驚きました。日本人の伝統や青少年の育成・発展に対し、様々な役割をしているということに感動しました。」

また、武道館は非常に歴史のある建物で、考えられて作られた建物だと思いました。大道場の改修後にオリンピックもあるのです、ぜひまた来館したいと思っています」

好評発売中

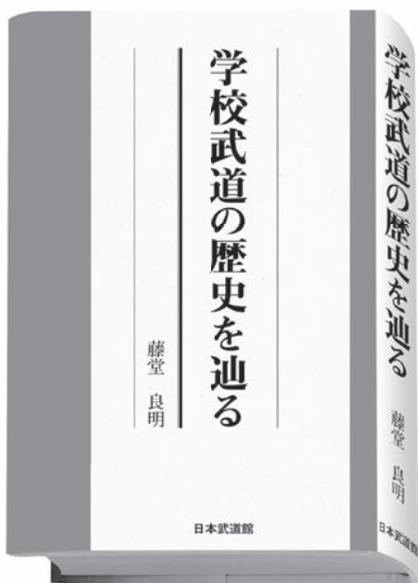
藤堂良明 (とうどう よしあき) 著
(筑波大学名誉教授)

学校武道の歴史を辿る

四六判・上製・354頁・本体2400円＋税

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成20年には「中学校武道必修化」が実現した。

学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



著者略歴

藤堂良明 (とうどう よしあき)

1949年(昭和24)、埼玉県生まれ。東京教育大学体育学研究所修士課程修了。筑波大学教授(体育科学系)、同大学体育専門学群副学群長、同大学附属中学校長、全国国立大学附属学校連盟会長、日本教育大学協会副会長、日本武道学会理事、全日本柔道連盟教育普及委員会委員などを歴任。

現在、筑波大学名誉教授。博士(学術)。柔道七段。埼玉県柔道連盟副理事長。日本古武道協会常任理事。

目次

- 第1部 江戸時代の学校武道
 - 第1章 藩学の創設と文武学習
 - 第2章 藩学における教育目標
 - 第3章 藩学における武芸教育
- 第2部 明治時代の学校武道
 - 第4章 武芸の衰退と学校教育制度の確立
 - 第5章 学校武術採用に関する体操伝習所の答申
 - 第6章 山岡鉄舟と嘉納治五郎
 - 第7章 嘉納治五郎の学校柔道普及戦略
 - 第8章 明治期の学校における武術の普及状況
 - 第9章 武術の正課採用への歩み
- 第3部 大正時代の学校武道
 - 第10章 文部省主催武術講習会の目的と内容
 - 第11章 学校体操教授要目の制定と内容
 - 第12章 「学校体操教授要目」制定後の体育界の動向
 - 第13章 大日本武徳会の設立と影響
 - 第14章 学生武道の隆盛
 - 第15章 改正学校体操教授要目の制定と内容
- 第4部 昭和20年以前の学校武道
 - 第16章 精力善用国民体育と学校武道
 - 第17章 柔・剣道が正課必修に
 - 第18章 戦前の学生武道大会の発展
 - 第19章 国民学校体操科の登場
 - 第20章 第二次大戦中の体操科武道
- 第5部 戦後の学校武道
 - 第21章 戦後の学校武道の禁止と復活
 - 第22章 「格技」の誕生
 - 第23章 格技から武道へ
 - 第24章 中学校武道必修化の実現
 - 第25章 これからの学校武道のあり方

発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中

合気道九段 多田 宏 著

合気道に活きる

四六判・上製・402頁・本体2400円＋税

昭和初期に生れ、戦後の早大生時代に植芝盛平、植芝吉祥丸、船越義珍、中村天風、日野正一の諸先生の教えを受け、合気道の稽古を生涯の道と志す。

昭和から平成への激動の時代に、本部道場師範を務め、各大学に合気会を創設、自らの道場も主宰し、さらに欧州各国への普及に尽力。合気道に活きた泰斗の軌跡を余すところなく示す珠玉の一冊。



多田 宏 (ただひろし)

昭和4年(1929)12月14日生。東京都出身。早稲田大学第一法学部在学中の昭和25年、植芝道場入門、合気道を始める。植芝盛平先生、吉祥丸先生に師事。同年、天風会入会、中村天風先生に師事。同年、一九会道場入会、日野正一先生に師事。昭和27年早稲田大学卒業。合気道の稽古と日本武道の歴史研究を専門とする道に進む。合気道本部師範・防衛庁師範を務め、慶應義塾・学習院・早稲田の各大学合気道会設立に尽力、師範となる。昭和39年渡欧し、欧州各国での合気道普及に尽力。イタリア合気会を創設。

現在、合気会本部師範、早稲田大学合気道会名誉師範、東京大学合気道会名誉師範、イタリア合気会主任教授、国際合気道連盟委員など。また、合気道多田塾を主宰。合気道九段。

目次

第一章 生い立ち

- 一 原点
- 二 幼稚園から小学校時代
- 三 第一東京市立中学校

第二章 師との出会い

- 一 松濤 船越義珍先生
- 二 植芝盛平先生・吉祥丸先生
- 三 中村天風先生
- 四 鉄叟日野正一先生・みち系先生

第三章 生き方の方針

- 一 植芝道場 先輩の教え
- 二 命の基を訪ねて
- 三 一生の方針を定める

第四章 植芝盛平先生の教えと稽古

- 一 気の錬磨
- 二 合気道の心
- 三 心学の道、心法の道
- 四 稽古と法
- 五 稽古の目的、人の生き方
- 六 「機」について
- 七 錬る
- 八 自然な動き
- 九 場を主宰する

第五章 合気道の普及

- 一 合気道の発展
- 二 「氣の流れ」の錬磨
- 三 ヨーロッパの合気道
- 四 合気道の国際的普及
- 五 氣の流れと縁

第六章 呼吸法(調氣の法)

終章 稽古を顧みる

発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第7回世界なぎなた選手権大会

日本が総合優勝 7連覇



7連覇を達成した日本選手代表団

後列左から、濱岡紀久子、三浦利枝子、藤田智也、加藤大貴、板垣勇、増田道仁、増田良明、小橋渉、吉井和代
前列左から、春山さくら、井上美代、安喰愛、林田智笑、金岡智子、林田葉純、志藤綾香

第7回世界なぎなた選手権大会

は、7月6日、ドイツ・ワイースバードンのソフィ&ハンス・シヨル総合学校スポーツホールで国際なぎなた連盟が主催し19カ国188名の選手が参加して開催された。世界なぎなた選手権大会は4年に一度開催する。

日本は、演技競技（しかけ応じ・全日本なぎなたの形、団体試合（女子・男子）、個人試合（女子・男子）の全6種目を制覇、総合優勝し、世界選手権7連覇を達成した。

また演技競技後は、公開演技であるリズムなぎなたが日本、アメリカ、イタリチームから披露された。

◇
澄んだ青空となった当日、各国選手の入場行進で大会は幕を開けた。

■演技競技

▽しかけ応じ

男女問わず出場可能で、指定された3本（2・4・6本目）を行い、5人の審判による旗形式で勝負を決する。

安喰愛・井上美代組は2回戦から登場し、呼吸のあった演技で5―

日本選手代表団

- ▷監督 三浦利枝子 (和歌山)
- ▷コーチ 濱岡紀久子 (岡山)
吉井和代 (東京)
- ▷マネージャー 坂東洲子 (和歌山)
- ▷トレーナー 樋口 敦 (千葉)

▷選手

○団体戦 (男子)

- 先鋒 増田道仁三段 (兵庫)
- 中堅 小橋 渉四段 (大阪)
- 大将 板垣 勇四段 (長崎)

○団体戦 (女子)

- 先鋒 金岡智子五段 (大阪)
- 中堅 林田葉純四段 (大阪)
- 大将 志藤綾香五段 (山梨)

○個人試合 (男子)

- 増田道仁三段 (兵庫)、増田良明四段 (兵庫)、藤田智也三段 (三重)

○個人試合 (女子)

- 林田智笑四段 (大阪)、安喰愛五段 (島根)、春山さくら三段 (熊本)

○演技競技 (しかげ応じ)

- 安喰愛五段 (島根)、井上美代五段 (島根)、金岡智子五段 (大阪)、林田智笑四段 (大阪)

○演技競技 (全日本なぎなたの形)

- 板垣勇四段 (長崎)、加藤大貴五段 (愛知)

参加国一覧

日本 (18名)、チェコ (5名)、イスラエル (11名)、ロシア (5名)、オーストラリア (6名)、フランス (17名)、イタリア (10名)、スウェーデン (9名)、ベルギー (10名)、ドイツ (15名)、オランダ (9名)、台湾 (8名)、ブラジル (6名)、イギリス (6名)、ニュージーランド (8名)、アメリカ (23名)、カナダ (18名)、香港 (2名)、ポルトガル (2名)



選手入場



しかげ応じ決勝 奥＝安喰・井上組
手前＝金岡・林田 (智)組



全日本なぎなたの形決勝
＝打・板垣 (手前右)、仕・加藤 (手前左)

0、4―1、5―0と力の差を見せつけて決勝戦に進んだ。

金岡智子・林田智笑組は、1回戦から5―0、5―0、4―1と気合の入った演技で圧勝し、決勝戦に駒を進めた。

日本勢同士の決勝戦となり、両チームは持ち味を出した演技で甲乙つけがたかったが、安喰・井上組が金岡・林田組に3―2で競り勝った。

▽全日本なぎなたの形

男女問わず出場可能で、指定された3本(3・4・5本目)を行い、5人の審判による旗形式で決する。

今大会から導入された「全日本なぎなたの形」は、板垣勇・加藤大貴組にとって未経験の競技だったので、大変プレッシャーを感じる種目であった。しかし、練習をやり込んだことが自信になったようで緊張感もほどよく、のびやかな演技で勝ち進んだ。決勝戦では、ベルギーを5―0と大きく引き離し、勝利した。

■団体試合

試合時間3分、延長は2分1回のみ、旗判定あり。



男子団体決勝＝大将・板垣(左)が面を攻める



女子団体決勝＝中堅・林田葉純(左)対Lutin, Luc

▽女子団体

日本は、先鋒・金岡智子(大阪府)、中堅・林田葉純(大阪府)、大将・志藤綾香(山梨県)の、大阪体育大学OGチームが出場した。

気心も知れているメンバーなので、のびのびと試合を展開し、一人一人が自分の役割を果たして安定した力を発揮し、決勝戦に駒を進めた。一方ではベルギーを降したカナダが決勝戦に勝ち上がった。

決勝戦では、先鋒の金岡が判定勝、中堅・林田が延長でメンを決めて、日本の優勝が決まった。大将の志藤は、攻めるタイミングを変えるなど変化に富んだ試合運びで、スネとメンの2本勝とし、大将としての貫禄をみせた。3位決定戦は、ベルギーがオランダに3-0で勝利した。

▽男子団体

先鋒・増田道仁(兵庫県)、中堅・小橋涉(大阪府)の若手選手と、ベテランの大将・板垣勇(長崎県)で構成された日本チームは、初戦から全員が2本勝し力の差をみせた。

準決勝はベルギーと対戦。事実上のヤマ場である。先鋒の増田が延長でスネを決め、中堅の小橋につな

ぎ、小橋は鮮やかにメンを2本決めた。さらに大将の板垣がスネの1本勝で、ベルギーに3-0で勝利し、決勝戦へ駒を進めた。

決勝戦は、オランダと対戦。先鋒戦で増田がスネを2本決めて勝利した。中堅戦の小橋が思い切りのよいメンを決めて勝ち、ここで日本の優勝が決まった。大将戦は板垣が会心のコテとメンを決めて勝利し、3-0で日本が頂点に立った。

■個人試合

試合時間3分で3本勝負、延長戦は2分1回で、勝負がつかない場合は旗判定を行う。

▽女子個人

安喰愛(島根県)、林田智笑(大阪府)、春山さくら(熊本県)の3選手とも早い試合展開で2本勝し、実力をみせながら準決勝に勝ち上がってきた。

準決勝1コートは、安喰対林田の対戦となった。林田は力んだのか打

突が伸びない。安喰も有効打突が出ない。延長戦に入り安喰は、林田が打ち急いでできた隙を見逃さずスネを決め、決勝の舞台へ駒を進めた。

一方、2コートでは春山がV. Charlotte(ベルギー)にスネの1本勝で勝利し、決勝戦に勝ち上がってきた。

決勝戦は、ベテランの安喰と若手ホープの春山の対戦となった。春山は若者らしく速いスピードとパターンで果敢に攻める。ベテラン安喰は動揺することなく冷静に相手を見て打突の機会を窺う。両者なかなか有効打突とならず延長戦に突入した。鋭い攻防が続く。試合時間残り20秒余り、安喰がメンで攻め、春山はスネで反撃するが不十分、次の瞬間、安喰のスネが見事に決まった。安喰が世界の女王に輝いた。

▽男子個人

1コートでは、増田良明が初戦は不戦勝、2回戦からの試合では、間に気をつけ、気分を充実させ安定した力を発揮し、全て2本勝で準決勝に勝ち上がった。

藤田智也も緊張することなく、払



女子個人決勝＝安喰（右）対春山（左）



男子個人決勝＝増田良明（右）が面を決める



リズムなぎなた・日本

い技や離れ際の相手の気の抜けた瞬間を攻めるなど、スピードのある打突で順当に準決勝に勝ち上がってきた。

2コートでは、増田道仁が自分の間合や呼吸を乱すことなくパワーのある試合を展開していた。準々決勝ではなぎなたを払われて落としたが、あわてることなく冷静に試合に臨み、延長でメンを決めて勝利し、準決勝に進んだ。準決勝では長身のD. Francois（ベルギー）にメ

ンを決め、1本勝で決勝戦に駒を進めた。

1コートの準決勝は、若手の藤田と年長の増田良明の対戦となった。増田は気力・体力ともに充実し、間合を遠間にとっていた。藤田も気力あふれるスピードある打突で攻めていく。増田は、藤田が近間から攻めてきたところを出端のメンを決め、2本勝で決勝戦に駒を進めた。

決勝戦は、増田良明と増田道仁の親子の対戦となった。父・良明は全日本選手権大会では、息子の道仁に敗れている。迷いを捨て、気分を充実させ全力で試合に臨んだ。道仁も攻める気持ちを出し切った。道仁が持ち換えた時に良明はメンを打ち、試合開始43秒で1本先取した。道仁はメンを連打するが、良明は間を切つて打たせない。道仁がメンを打とうとした瞬間、良明は逆にメンを打ち返した。良明の気合の入った伸びのあるメンが2本決まり、男子世界チャンピオンの座を獲得した。

■リズムなぎなた

人数は2名以上で制限時間5分以内、総合成績の対象にはならない。

日本・イタリア・アメリカの3カ国が演武を行った。

日本は「Cool Spiral」の曲で、タイトル「花鳥風月」を7名の女子選手で優雅に披露した。

イタリア、アメリカも独創的なりズムなぎなたで素晴らしい演武だった。会場は拍手喝采に包まれ、大いに盛り上がった。

（文責：三浦利枝子）

【大会結果】

▽演武競技（しかけ応じ）

- ①安喰愛・井上美代
- ②金岡智子・林田智笑
- ③Chris, Coppens &

▽演武競技（全日本なぎなたの形）

- ①板垣勇・加藤大貴
- ②Ty, Derman &
- ③Juan, Hernandez &
- Shannon, Lew（アメリカ）

▽女子個人試合

- ①安喰愛②春山さくら③林田智笑

▽男子個人試合

- ①増田良明②増田道仁③藤田智也

▽女子団体試合

- ①日本②アメリカ③ベルギー

▽男子団体試合

- ①日本②オランダ③ベルギー

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい



私の歩んだ

なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永千代子 著

(四六判・上製・252頁)

戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るまで、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、武道指導者必読の一書。

- ◇第1章多感な少女時代
- ◇第2章薙刀術教員養成所
- ◇第3章卒業
- ◇第4章なぎなた教師
- ◇第5章全日本なぎなた連盟結成
- ◇第6章財団法人化
- ◇第7章体協加盟と国体参加
- ◇第8章生涯続くなぎなたの道



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行！ 海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。



贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編

(四六判・上製・366頁)

全国各地のなぎなた範士 25 名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。



なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長
国際なぎなた連盟副会長

長濱 文子 著

(四六判・上製・356頁)

沖縄におけるなぎなた成長の道のりを、連盟会長として組織運営・人材育成に携わってきた著者が振り返る。



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

傘寿を超えた武道界の先達 30 名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。

武道錬成大会

令和元年度全日本少年少女武道錬成大会が、7月14日の合気道を皮切りに、弓道（15日）、剣道（20日・21日）、空手道（27日）、柔道（28日）、銃剣道（31日）、少林寺拳法（8月3日）、なぎなた（4日）の計8種目9日間、全国からおよそ1万7千名の参加者を得て開催された。

今年の夏も昨年 continu、異常な暑さで全国各地で35度以上を記録する日々が続く中、猛暑にも負けず、自分にも負けない子どもたちの元気いっぴいの掛け声が日本武道館大道場にこだました。

令和初の錬成大会は、新しい時代の幕開けにふさわしい盛大な大会となった。

※全日本少年少女武道錬成大会受賞一覧は226〜233頁に掲載。



令和元年度

全日本少年少女



少林寺拳法



柔道



剣道



合気道



なぎなた



銃剣道



空手道



弓道



合気道開会式

合

気道



大会名誉会長挨拶
植芝守央
合気会理事長



大会会長挨拶
高村正彦
日本武道館会長



7月14日

175団体2158名参加

開会式では、高村正彦日本武道館会長と植芝守央合気会理事長が挨拶。開会式終了後に基本錬成に移り、全員で舟漕ぎ運動を行った。続いて稽古錬成では、参加者は学年ごとに4部門に分かれ、本部道場指導者の示範を見学し、受身や基本技の稽古を行った。演武錬成では、2分という限られた時間の中で、各団体が日頃の稽古の成果を披露した。

最後に植芝充央本部道場長が総合演武を行い、錬成大会を締め括った。





総合演武（植芝充央合気会本部道場長）



ちかいのこたば
吉田琳太良・宮本奈々（埼玉県・合気道桶川愛気会）



大会を振り返って



昭和54年度全日本少年武道（合気道）錬成大会

昭和54年の第1回大会には、関東地区を中心に約600名が参加。基本錬成、応用錬成、模範指導、基本技解説など盛りだくさんの内容で開催され最後に講師として植芝守央現道主が模範演武を披露。



弓

道



大会名誉会長挨拶
中野秀也
全日本弓道連盟会長



大会会長挨拶
川端達夫
日本武道館常任理事



7月15日

101団体1312名参加

開会式では、川端達夫日本武道館常任理事と中野秀也全日本弓道連盟会長が挨拶を述べた。

開会式後の基本錬成では礪部孝教士七段の指揮のもと、選手たちは大道場いっぱい広がって徒手の射法八節を行い、射法を確認した。

試合錬成では、はじめに予選（男女とも1チーム3名で各4射の計12射）を行い、6中以上のチームが予選を通過し、決勝は的中数により競われた。



特別演武

(左から鹿野伸一教士六段、斉藤美智子教士七段)



ちかいのことば

住谷愛菜・池田颯太 (茨城県・阿見町立阿見中学校)



大会を振り返って



昭和63年度全日本少年武道(弓道)錬成大会

弓道は現在開催されている8種目の錬成大会の中で最も開始が遅く、昭和63年から実施された。第1回大会には50団体580名が参加し、場内に塚(あづち)が設置された。



剣

道



大会会長挨拶 (21日)
森英介
日本武道館常任理事



大会名誉会長挨拶 (20日)
福本修二
全日本剣道連盟副会長



大会会長挨拶 (20日)
臼井日出男
日本武道館理事長



7月20日・21日 814団体5848名参加

開会式では20日は臼井日出男日本武道館理事長と福本修二全日本剣道連盟副会長が、21日は森英介日本武道館常任理事と奥島快男全日本剣道連盟副会長が挨拶。

開会式の後は、選手全員で大道場いっぱいになり、準備運動と手刀による素振りを行った。試合は5人制の団体で行われ、基本判定試合と一本勝負、ベスト8からは三本勝負で争われた。



ちかいのことば (21日)
榎木皓正
(滋賀県・志津尚武館)



ちかいのことば (20日)
左から一ノ瀬隼人・福本幸太・木下夕輝
(福岡県・春日光龍会)



大会名誉会長挨拶 (21日)
奥島快男
全日本剣道連盟副会長



公開演武「木刀による剣道基本技稽古法」
(東京都・あきるの市剣道連盟)



大会を振り返って



第一回全日本少年剣道錬成大会

第1回全日本少年剣道錬成大会は昭和41年に開催された。大会の特色は、試合だけでなく基本判定試合も行い、両方の総合判定で勝敗を決するところにあり、現在もその伝統が受け継がれている。



空

手道



大会名誉会長挨拶
笹川 堯
全日本空手道連盟会長



大会会長挨拶
塩谷 立
日本武道館常任理事



7月27日

132団体1635名参加

開会式では塩谷立日本武道館常任理事、笹川堯全日本空手道連盟会長が挨拶を行い、模範演武としてシユニアナショナルチームによる団体型が披露された。続く基本錬成では基本の突き、蹴りを精一杯行なった。試合錬成は1チーム3人制の団体戦形競技を小学生3部門、中学生2部門の計5部門で実施し、各ブロック上位8チームが決勝トーナメントに進んだ。参加者たちは一つ一つの競技に真剣に向き合い、持てる力を出し切った。



模範演武・ジュニアナショナルチーム団体形「ウンスー」
岩田彩菜（右）、泉優里花（中央）、花岡瑠菜（左）



ちかいのことば
渡邊壮祐（右）・渡邊倅成（山梨県・修心館）



大会を振り返って



昭和53年度全日本少年武道（空手道）錬成大会

空手道錬成第1回大会は昭和53年、約1500人が参加して開催された。開催当初の試合錬成は点数制の形競技のみだったが、平成6年から組手競技も導入され、現在の形となった。



柔

道



大会名誉会長挨拶
野瀬清喜
全日本柔道連盟副会長



大会会長挨拶
河村建夫
日本武道館常任理事



7月28日

263団体2701名参加

河村建夫日本武道館常任理事、野瀬清喜全日本柔道連盟副会長が挨拶。基本錬成では、木村昌彦指揮者のもと、山部佳苗、山本杏、七戸龍、佐藤正大選手等が解説を加えながら演武を披露。技のポイントを分かりやすく説明した。試合錬成では、高学年の部（5・6年生）、低学年の部（3・4年生）の2部門により行われた。選手たちは、渾身の気合いとともに、決して自分に負けない心持ちで試合に臨んだ。



模範演武①
山部佳苗選手は払腰を解説



模範演武②
内股を披露する七戸龍選手



ちかいのことば
児嶋陸（群馬県・新田荻原道場）



大会を振り返って



靖国神社創立百年奉祝
全日本少年武道錬成大会柔道の部（昭和44年）

昭和44年、剣道に次いで開始され、今年で51回大会となる。昭和62年には谷亮子（旧姓・田村）選手も参加するなど、後々の有名選手も数多く参加している。



銃

剣道



大会名誉会長挨拶
番匠幸一郎
全日本銃剣道連盟会長



大会会長挨拶
白井日出男
日本武道館理事長



7月31日

44団体254名参加

開会式では白井日出男日本武道館理事長と番匠幸一郎全日本銃剣道連盟会長が挨拶を行った。
開会式後の特別演武では「銃剣道基本・応用技」が披露され、続いて行われた合同錬成では指揮者の号令に従い、銃剣道と短剣道の基本動作の稽古に励んだ。試合錬成では、銃剣道と短剣道の個人戦と団体戦がそれぞれ行われ、選手の気迫のこもった声が大道場にこだました。



特別演武
中島克直教士八段（右）・山田壮一教士七段（左）



ちかいのことば
高橋凌平・滝沢琉夏（新潟県・元気道場）



大会を振り返って



昭和54年度全日本少年武道
（銃剣道）錬成大会

昭和54年に第1回大会を開催。当時はまだ銃剣道部門はなく、銃剣道部門のみを全9部門で行っていた。翌55年から銃剣道団体戦が、また平成14年から銃剣道個人戦が実施されるようになった。



少

林寺拳法

8月3日

191団体1460名参加

開会式では、高村正彦日本武道館会長と宗由貴少林寺拳法グループ代表が挨拶。続く、基本錬成では、志村力准範士七段の指揮のもと、拳士たちは元氣いっぱい突きや蹴りを繰り返した。演武錬成は、段・級・学年ごとに単演武や組演武、団体演武を行った。

模範演武後の稽古錬成では、日本武道館創立の55周年にちなんで、全員で55回の突きを行って大会は終了した。



宗 由貴
少林寺拳法グループ代表



高村正彦
日本武道館会長





模範演武＝
志村力准範士七段（左）、川島佑斗正拳士五段（右）



鎮魂行主座
福村優月
（静岡県・清水袖師道院拳友会）



来賓祝辞
瀧本寛
スポーツ庁次長



大会を振り返って



昭和55年度全日本少年武道
（少林寺拳法）錬成大会

昭和55年に開始。今年で40回目を迎えた。多くの拳士が出場できるようにと審査方法が工夫され、「賞の有無より参加することが大切」の主旨で、連続と続いている。



な

ぎ な た



大会名誉会長挨拶
佐藤浩市
全日本なぎなた連盟会長



大会会長挨拶
高村正彦
日本武道館会長



8月4日

165団体1225名参加

開会式では、高村正彦日本武道館会長と佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長が挨拶に立った。

基本錬成では、参加者は大道場に広がり、指揮者の号令に合わせ、素振りと体捌きを行った。競技に移り、学年ごとに演技競技（小・中4部門）と試合競技（小・中10部門）でそれぞれが精一杯の力を出し、令和最初の少年少女武道錬成大会最終日を締め括った。



ちかいのことば
橋垣苺佳（島根県なぎなた連盟）



大会を振り返って



昭和53年度全日本少年武道（なぎなた）錬成大会

第1回大会は昭和53年に開催され、小・中学生約700名が参加。当時は演技競技は12部門、試合競技は団体戦を含む10部門で行われた。写真は入場行進の様子。



令和元年度

全日本少年少女武道錬成大会 受賞一覧

令和元年7月14日から8月4日までの9日間にわたって日本武道館で開催された令和元年度全日本少年少女武道錬成大会の受賞一覧を掲載いたします。

※来年、令和2年度は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催のため中止となります。令和3年度以降は、全館増改修後の新しくなった日本武道館で、引き続き本大会を開催する予定です。

中沢俊亮・武居哲生・長塚統・鈴木大翔（世田谷区立緑丘中学校）、小澤エリーナ・寺本大起（一蓮合気道会）、齊藤彩季・千田悠太郎・石谷拓巳・望田公太郎・齊藤惇生・中島咲人（多摩川合気道会）、渡邊篤哉・椎名美月・眞下櫻子・延々篠汰・遠藤はな・鈴木優依・五十嵐葉月（板橋区合気会）、齊藤達己（板橋合気倶楽部明友会）、荒木結友（正弘合気道会）、高濱敏行（武蔵府中合気道同好会）

【神奈川県】坂本大河（合気道自灯館道場）、宇留野史香・日下智貴（合気道唯心館杉野道場）、林果歩・川崎未翔・草村汰空・的場兔月（合気道幸徳会）、セリシア咲舞・セリシア瑛（AIKI 健芯 CLUB）、市川温大・桑原正成（合気道青葉塾道場）、松隈咲幸（合気道春水道場）、後藤伶生（桜台合気道クラブ）、天野冴・佐々木里緒・西野珠実・松岡朋尚・天野匡（春陽会）、牛尾優里（南林間カルチャーセンター）、北田穂乃花（横浜南合気会）、小西崇生・前田千尋・臼田凜咲（鶴岡八幡宮研修道場合気道科）、長谷川景亮・西田大智（城下町合気道〔小田原道場〕）、山本恵多・宮本望夢・山本泰史（藤沢合気道倶楽部）、武内凪（無門館）、加藤悠・望月さおり（合気道相模和道会）、二俣友宣（合気道高城道場合気道わんぱく道場）、浅沼八雲・浅沼椿（綾瀬市・海老名市合気会）、藤澤優姫・藤澤唯唯・狩野隼之介・濱口海・小嶋蘭（寒川合気会）、中川高耀（国立印刷局合気道部）、吉川昌宏・吉川知宏・浅井香鈴（秦野武産合気会）、西川瑠華・大迫碧桜・大迫榛斗（合気道相模誠心会田名道場）、田代結萌・田代佑羽（よみうりカルチャー横浜合気道教室）、綿井大樹（東急セミナー BE 青葉台）、田中善瑛・田中聖人・池田徹平（葉山町合気会）

【長野県】坂巻圭亮・滝沢亮弥・金井海晴・中原匠望（合気道武石道場）

【静岡県】大宮山和音（裾野合気会）、大野瑛汰・木内謙介・林瑛翔・鈴木彩愛・蜂須賀渚・原竹凜・木内讓太郎・林遙希・林優吾・市川結李加・佐野繪音・林征吾・鎌田理生・石田怜那・森本陽南子・市川綾香・佐野聖奈（伊豆至誠会）、飯田風香・山田恭介・今西弘毅（合気道石苺塾童夢の会）、市川蒼大・広瀬希・葦科真之介・望月天翔・葦科真奈（啓翔会）

【愛知県】豊田優（小牧合気会）

【三重県】後藤聖虎・中西琉之介・野呂彩乃・小宮悠里・曾根遥果・後藤瞳空（鈴鹿合気会倉武塾）

【大阪府】平野遥香・小松薙佳・東璃子・浜田悠希・山野紗良・増田蒼大・小松龍生・平拓海・中野春風（合気道正勝会）、葛籠蒼介・南原颯人・瑞希蒼奈（合気道泉州武会会）

【兵庫県】今田愛良・藤堂結子・今田怜良（相生会にしのみや合気道クラブ）

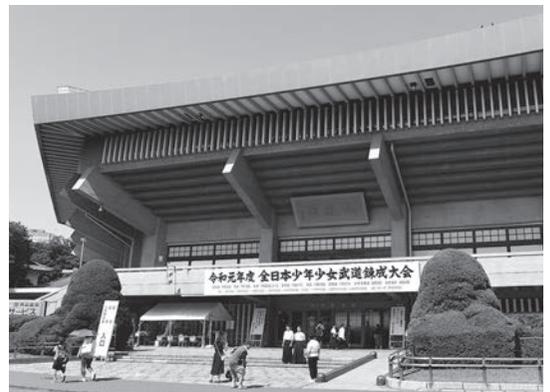
【奈良県】安西徳将・田中智也・木村玲（奈良合気会）、菊地映汰・大久保和希・菊地玲汰・狩野希実（合気道西大和会）、赤松里咲（合気道三錬会）

【和歌山県】大迫樹玲・野際蘭・糸田遼・野際杏・東浦風成・最田陽登（和歌山竹豊館道場）

【岡山県】水野吉菜（倉敷天領塾）、川西佑尚（倉敷市立西中学校合気道部）

【広島県】阿賀実月・杉岡知旺・山口嘉一（合気道広島会ひと幼幼稚園長東道場）

【愛媛県】田中里桜（今治合気道教室）



合気道 — <努力賞>

【青森県】 田中凱智・奈良彩寧・岡村宗祁・齊藤壮宣（青森道場）

【山形県】 香澤結菜（合気道真室川道場）

【福島県】 薄井智大・遠藤巧・半澤咲弥（合気道須賀川道場）

【茨城県】 佐藤汰一（つくば牛久合気道友会）、山岡夢歩（江戸崎合気会）、小長谷圭・小田島環（取手市合気道スポーツ少年団）、植田景二郎（つくば合気道会）、薄井咲帆・飯島結菜・高木惇喜・青木潮音（水戸市合気道スポーツ少年団）、江原竣・奥村洸太・石井真菜・栗遥日（ひたちなか市合気道少年団）、生駒花凜・黒澤兵太・高橋風奈・岡村孝太郎・大和田佑翔・本岡昂大・長谷川カンナ・西村蓮彩（岩間合気道スポーツ少年団）、志賀由弥・鈴木七夏（東海合気道少年団）、寺門理一郎・細川煌真（常陸大宮合気道少年団）、佐藤天音（那珂湊合気道少年団）、石井美咲（笠間市体協合気道部笠間教室）

【栃木県】 木戸光佑・鈴木陽大・木戸光志・小暮主馬・カラヴェ空・花村昂翼（小山合気会）、寺岡幸城（足利市民合気道クラブ）

【群馬県】 大沢剣慎（薫風館）

【埼玉県】 関翔太郎・興津匠・伊藤光希・先崎弘治郎（合気道浦和尾又道場）、久保田創太（A & P 合気道石垣道場）、塩田莉久・古川義人（大成合気道会）、須藤要・池田政陽・中尾陽太・春田全・鈴木千紗（蔵合気道会）、小島直刀・小島志成・石川翔大（浦和合気会）、山田侑輝（A & P 合気道大関道場）、宮田結衣・曾我部由名（草刈合気道研究会）、高橋宗太郎（蓮田合気会）、廣瀬泉紀（合気道川越道場）、金井楓未弥（日高市合気道同好会）、古市侑・鈴木蔵人・スーヨノ ナターシャ（合気道研心会）、石井佳歩・高橋伽耶（狭山市合気道教室）、岩崎直生・増子珀兔（合気道修練道場自然館）、久保田公暉（合気道光道場）、渡辺玲来・フェア明素新（志木合気会）、佐々木裕妃（合気道神明塾）、河内晴輝（合気道明心会）、志村莉恩・岩崎大飛・細山田健人・平沢蓮・志村蓮（入間幸武館道場）、鈴木陸仁・森潤・野村悠翔・伊藤琉司（新所沢合気道同好会）、千葉鈴・富山さくら・山本晃己（白岡合気会）、雨宮聖二（上尾合気会）、赤岡鞠弥・堀田桃羽（佐藤実花・加藤和希（本庄合気会）、金山謙之信（合気道健武館）、川上遥久（晴光会）

【千葉県】 鈴木丞二・池田拓貴・根本光・濱田香桜・菅野勇輝・菊地陽翔・中村正宏（千葉市立椿森中学校合気道部）、井出敢大・伊藤璃里香・岡田健太郎（合気道弘龍會明心館道場）、高橋咲和・富田歩夢（流山合気道同好会）、大嶋亮輝・池田樹宝（我孫子市合気道スポーツ少年団）、岡部旬佑・有賀さな（船橋合気会）、伊藤咲耶・金澤柚麦・河野愛唯・河野麻唯・齋藤夢乃・坂谷諒太・萩原瑞稀・阪野桜彩・渡邊子龍（朋清会白井道場）、玉木雅輝・木内柗宏（合気道れんしん会）、紙透心緒（八千代市合気道連盟）、坂田真義・樋口嵩大・吉川百花・高山海翔・眞鍋史人・藤塚健志（流山合気会）、仁平悠志（合気道浦安道場）、鈴木結愛・大木啓史・植松大翔（合気道松心館）、福田光翔（北総合合気会八街道場）、藤寄裕佳・佐久間莉帆・藤寄悠月・伊藤蒼大・岩部真彩・藤寄遥佳・佐久間ゆめ・堀越光輝・岩部海・堀越未來（袖ヶ浦合気会）、市成可尚（合気道命炎塾）、横尾光剛（合気道誠氣会）、生駒伸太郎（高根台カルチャーセンタージュニア合気道）、藤田詞葉・向井慧里・滝沢神威・森さくら・パンシル バンダー

ラ（柏合気会少年部）、有田千優・菅谷実知花・鈴木楓乃・熊谷優花・伊藤爽太（合気道明心館スポーツ少年団）、佐久間陽菜・佐久間雄己（北総合合気会山武道場）、屋代颯史（柏の葉カルチャーセンター）、古川結梨（北総合合気会富里合気道友会）

【東京都】 藤原太郎・岡本啓太郎（中央区合気会）、青木亮太郎・佐藤由啓・花澤瑠斗・早本一生（武蔵中学校合気道部）、寺本裕太郎（文京区合気会）、菅原丈・堀場稜花・戸田一貴・島村和志・船生米子・武田杏南・嘉納健人・魚住琉那（荒川合気会）、遠藤凛・鈴木菜々花（合気道順風会）、大住心和（合気道石田塾）、吉山亜海・安田桜（葛飾合気会）、寺本權真・孫伶娜・孫俐娜・富永潤（合気道土井道場）、内山奈緒・長谷川航（城東誠和会）、片岡樹紀（鐘ヶ淵合気道クラブ）、山田航己・渋谷修平（新小岩合気会）、堀越絢香（合気道木下道場）、中野勇琉・石井斗和・清水景太・榎本実久・梅林果穂・松丸琴子・安井碧月・上川由夏子（合気道向日葵道場）、伊藤遼飛・松浦悠真（合気道進藤道場）、三枝和華子・小島治樹・木村京花（東急セミナー BE 雪が谷）、門倉加奈（大森三中合気道会）、竹田大成・伊達悠（西馬込合気道会）、田口太郎（大田区合気道会）、小松優果・杉本慎晟（合気道八起会）、田中悠太（渋谷区合気道同好会）、齋藤風花・山地真央（守清館）、山田怜旺・野口大輝・大久保慶一郎・福田理・中村弘京・熊倉美緋・福井翔太・橋本史帆・小林珠子・九玉遙加・岩前宏武・岩前和佳奈・中村幸生・高橋ひなの・水田早香（合気道れいめい会）、北見春人・三ツ橋武志・草間勇介・中山裕矢・小林恵一郎・菅野由二果・祖田明日夏（祖師谷合気会）、東條実理・石井悠裕（朋清会）、佐藤雄一・荒川和馬（合気道自由が丘道場）、富岡穂乃香・熊井大河（中野区合気道会）、隈本空（明清会）、須本恵太（合気道心会和）、雑賀碧友・松元咲樹・田中良明・平井迦音琉・三浦大知・永島迪・松本明・三浦弘夢・平井李々菜・上田ちひろ・島田智弘・鈴木由莉子・松元鵬龍（月窓寺道場）、西田彬人・上野夏唯・須藤寛太・渡邊諒也・河野彩葉・椎名結吐・竹下夢愛華・清水琥太郎・矢田晴央・竹下裕果・大石時久・上野凌・西田昊立・小林瑠佳・須藤蒼太・上原旺真・田村真俐アメリ・布施千智・海雲美風・高橋未來（合気道新川塾）、伊師大雅・中出裕秋・志渡澤咲樹（春風合気道会）、幸野瑛丸・秋山莞那・幸野凱削・秋山竜之介・武田丈（仲池合気道同好会）、大野純平・藤田麻里（調布合気道会）、廣瀬宗来（花小金井合気道燦燦館）、橋爪音和・井上光・門田佑夏（東村山市合気道会）、原島桃果・山崎木蓮（合気道「倫」）、大森寛玖（穎明館中等高等学校合気道部）、星百花・山本崇寛・武部一混・河内杜和（東大和市合気道会）、津田希海・原聖矢・小池深月（合気道三澤塾）、藏元咲幸（鷹の台合気道同好会）、成宮詩・實生葉・横平到馬（新宿スポーツセンター合気道教室）、清水奈津子・西村海（公益財団法人合気会本部道場少年部）、師岡寛・陳治旭（日本武道館武道学園）、佐藤俊武根・佐藤傑武根（東村山合気道クラブ）、加園幸輝（武蔵村山合気道会）、石原有・古本杏零（飛鳥合気道）、杉原松允・三鬼健太郎・神田紫羽（千住合気会）、内木小三郎・中山美咲・成澤みのり・米家楽・劉熙君・劉文愷・反町翠・千田桐絵・森久保美冬・小川凜花・鈴木捺希・細川夕陽・松田利久・山田健太・千田実優・佐々木悠仁・反町佑・中山佳祐・成澤ひより・渡邊紗希・三木悠立・鈴木智一（杉並合気会）、

弓 道

7月15日開催

男子の部

優秀賞	優良賞	敢闘賞	技能優秀賞
東海中学校弓道部（愛知県） 矢板市立矢板中学校A（栃木県）	北犬飼中学校B（栃木県） 松戸市立栗ヶ沢中学校A（千葉県）	小川中学校A（熊本県） 芳賀中学校C（栃木県） 清真学園中学校A（茨城県） 幸田町立北部中学校（愛知県）	東海中学校弓道部（愛知県） 北犬飼中学校B（栃木県）
努力賞	予選通過チーム（12射6中以上） 19チーム		

女子の部

優秀賞	優良賞	敢闘賞	技能優秀賞
北犬飼中学校B（栃木県） 鹿児島松元中学校A（鹿児島県）	豊川市立一宮中学校A（愛知県） 宇都宮市立陽西中学校弓道部A（栃木県）	鹿児島市立郡山中学校A（鹿児島県） 愛知県豊田市立朝日丘中学校A（愛知県） 栃木県大田原市立大田原中学校B（栃木県） 鎌倉女子大学中等部A（神奈川県）	北犬飼中学校B（栃木県） 鹿児島松元中学校A（鹿児島県）
努力賞	予選通過チーム（12射6中以上） 16チーム		

剣 道

7月20日開催

	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
第1ブロック	鬼高剣友会A（千葉県）	梅本少年剣友会（東京都）	五葉館A（栃木県）	大田原剣友会A（栃木県）
第2ブロック	東松館道場A（東京都）	浦安本部道場A（千葉県）	柏武道館A（千葉県）	仁智館道場A（新潟県）
第3ブロック	東レ居敬堂（愛知県）	森安修道館（福岡県）	武蔵館A（埼玉県）	蔵の街剣志会A（栃木県）
第4ブロック	山梨健心館A（山梨県）	志道館学園A（岐阜県）	成邸剣志会A（千葉県）	俊水館道場A（茨城県）
第5ブロック	解脱錬心館A（埼玉県）	上尾市剣道教室A（埼玉県）	養浩館道場A（神奈川県）	西新井警察署少年剣道部（東京都）
第6ブロック	斉信館剣友会A（神奈川県）	神戸枝吉己勝館（兵庫県）	神奈川県片瀬剣友会（神奈川県）	修心館村本道場（奈良県）
第7ブロック	聖和剣道友の会（大阪府）	矢口剣志会A（東京都）	南平剣友会A（東京都）	鬼高剣友会B（千葉県）
第8ブロック	東松館道場B（東京都）	埼玉一心館A（埼玉県）	弁天剣友会少年剣道部（大阪府）	浜北武道館（静岡県）

7月21日開催

	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
第1ブロック	泉大津剣道協会（大阪府）	武徳館剣道教室A（愛知県）	誠心剣友会（岐阜県）	習心館道場（奈良県）
第2ブロック	昇龍館一福道場（岡山県）	練兵館（栃木県）	尼西水明クラブ（兵庫県）	千葉南武館A（千葉県）
第3ブロック	鹿沼市剣友会A（栃木県）	吉備剣道スポーツ少年団（岡山県）	剣道 緑ノ風A（埼玉県）	徳島少年剣道教室（徳島県）
第4ブロック	印南剣道場（兵庫県）	小松桜木剣正会A（石川県）	戸塚道場A（神奈川県）	練馬区剣道連盟A（東京都）
第5ブロック	習志野武道館A（千葉県）	大阪剣武館（大阪府）	宍粟剣徳会A（兵庫県）	絃武館A（栃木県）
第6ブロック	埼玉越生錬成会（埼玉県）	凌雲館村雲道場（富山県）	白根剣士会道場（新潟県）	大沼若松剣道会（神奈川県）
第7ブロック	誠道会北部道場A（静岡県）	佐貫清心会（千葉県）	八心会A（岐阜県）	戸塚道場B（神奈川県）
第8ブロック	さくら会少年剣道部（岐阜県）	吉備剣道クラブA（和歌山県）	西尾市立矢田小学校A（愛知県）	瀬谷区剣道連盟南瀬谷支部（神奈川県）

空手道

7月27日開催

小学1・2年生の部

優秀賞	努力賞
全日本空手道一友会 A (東京都) 全日本空手道一友会 B (東京都)	日本空手道泊親会川崎B (神奈川県) 英友会 (神奈川県)
優良賞	剛柔会正剛道場 A (静岡県) 誠武会 (東京都) 蒼鷹会空手道教室 (東京都)
敢闘賞	総合武道松武会 (東京都) 正武館空手道場B (東京都) 剛柔会相模館 (神奈川県)
昇政塾 (千葉県) 養正館D (静岡県)	
清原空手道スポーツクラブ (栃木県) 日本空手道泊親会川崎 A (神奈川県) 日本空手道明光館 (神奈川県) 剛柔流空手道勝山会 A (千葉県)	

小学3・4年生の部

優秀賞	努力賞
剛柔流空手道錬心会 A (埼玉県) 全日本空手道一友会 A (東京都)	日本空手道泊親会川崎 (神奈川県) 日本空手道明光館 A (神奈川県)
優良賞	剛柔会相模館 (神奈川県) 拳勝館鎌倉支部 (神奈川県)
敢闘賞	日本空手道 拳勝館 (神奈川県) 日本空手道一颯会 A (神奈川県) 剛柔会正剛道場 A (静岡県) 川口空手アカデミー A (埼玉県)
全日本空手道一友会 B (東京都) 養正館D (静岡県)	
蒼鷹会空手道教室 A (東京都) 正武館空手道場 C (東京都) 一宮 (千葉県) 空手道一心塾 A (千葉県)	

小学5・6年生の部

優秀賞	努力賞
空手道一心塾 A (千葉県) 全日本空手道一友会 A (東京都)	日本空手道泊親会川崎 A (神奈川県) 松涛連盟世田谷 (東京都)
優良賞	清原空手道スポーツクラブ (栃木県) 蒼鷹会空手道教室 (東京都) 養正館 A (静岡県) 養真館 (神奈川県)
敢闘賞	剛柔流空手道錬心会 B (埼玉県) 拳勝館六会支部 A (神奈川県)
如水会川崎 (神奈川県) 皆思道場 (東京都)	
正武館空手道場 A (東京都) 日本空手道道場会川口マリン空手クラブ A (埼玉県) 昭空会 A (東京都) 剛柔会相模館 (神奈川県)	

中学校男子の部

優秀賞	努力賞
全日本空手道一友会 A (東京都)	日本空手道明光館 (神奈川県)
優良賞	日本空手道道場会川口マリン空手クラブ A (埼玉県)
敢闘賞	剛柔会相模館 (神奈川県) 清原空手道スポーツクラブ A (栃木県)
全日本空手道一友会 B (東京都)	
清原空手道スポーツクラブ B (栃木県) 川口空手アカデミー (埼玉県)	

中学校女子の部

優秀賞	努力賞
全日本空手道一友会 A (東京都)	日本空手道 拳勝館 A (神奈川県) 明桜塾 (千葉県) 茂原武道館 (千葉県)
優良賞	川口空手アカデミー (埼玉県)
敢闘賞	
蒼鷹会空手道教室 (東京都)	
全日本空手道一友会 B (東京都) 剛柔会相模館 (神奈川県)	

柔道

7月28日開催

	優秀賞	優良賞	敢闘賞
第1ブロック (高学年)	新田荻原道場 (群馬県)	松前柔道塾 (東京都)	鈴木道場 (東京都) あすなろクラブ (大阪府)
第2ブロック (高学年)	舞鶴柔道クラブ (茨城県)	鶴来坂田道場 (石川県)	古賀塾 (神奈川県) 朝飛道場 (神奈川県)
第3ブロック (高学年)	社柔道少年団 (兵庫県)	五所川原柔道少年団 (青森県)	育誠館道場 (静岡県) 大石道場 (愛知県)
第4ブロック (高学年)	常総市体育協会石下柔道部 (茨城県)	春日柔道クラブ (東京都)	内郷柔道塾スポーツ少年団 (福島県) 錬心館岡野道場 (千葉県)
第5ブロック (低学年)	広畑柔道教室 (兵庫県)	我孫子警察署少年柔道クラブ (千葉県)	五十嵐道場 (埼玉県) 鈴木道場 (東京都)
第6ブロック (低学年)	豆蔵柔道クラブ (東京都)	邑知少年柔道教室 (石川県)	紅柔道少年団 (千葉県) 岩槻柔道双葉会 (埼玉県)
第7ブロック (低学年)	春日柔道クラブ (東京都)	中山柔道会 (千葉県)	世田谷柔道クラブ (東京都) 新越谷 山崎道場 (埼玉県)
第8ブロック (低学年)	一道館 (神奈川県)	窪田柔道倶楽部 (石川県)	松阪市武道館柔道教室 (三重県) 鶴田町柔道少年団 (青森県)

銃剣道

7月31日開催

団体試合錬成

学年	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
小学5・6年生	元気道場A（新潟）	名寄ピヤシリ銃剣道少年団（北海道）	掛川銃剣道連盟A（静岡）	名倉銃剣道クラブ（兵庫）
中学生	名寄ピヤシリ銃剣道少年団（北海道）	七ヶ浜銃剣道少年団A（宮城）	元気道場B（新潟）	元気道場A（新潟）

銃剣道個人試合錬成

学年	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
小学1・2年生	根塚愛稟（美幌銃剣道少年団）	田中悠聖（鳥取県立武道館）	外尾海悟（佐賀県選抜）	足澤誉華（鳥取県立武道館）
小学3年生	近藤草助（元気道場）	吉田怜奈（船橋武道倶楽部）	伊藤はな乃（七ヶ浜銃剣道少年団）	外尾海青（佐賀県選抜）
小学4年生	平松花音（本間道場）	根塚光星（美幌銃剣道少年団）	相野煌（八戸クラブ）	北村心花（佐賀県選抜）
小学5年生	小池健太（元気道場）	長岡希空（元気道場）	大桃紘都（元気道場）	内藤大聡（勝北銃剣道クラブ）
小学6年生	滝沢柊士（元気道場）	谷武蔵（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）	白木優敬（掛川銃剣道連盟）	大石幸村（掛川銃剣道連盟）
小学5・6年生女子	糸原心温（鳥取県立武道館）	細谷妃鶴（七ヶ浜銃剣道少年団）	大石桂花（掛川銃剣道連盟）	西村歩育（佐賀県選抜）
中学1年生	森慶博（岐阜クラブ）	細川楓河（小奴可剣友会）	植村将大（本間道場）	綿貫将太郎（掛川銃剣道連盟）
中学2年生	谷菅哉（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）	赤井晃佑（福島市銃短剣道スポーツ少年団）	光永瞬希（美幌銃剣道少年団）	大内奏空（水戸クラブ）
中学3年生	渡辺星雅（七ヶ浜銃剣道少年団）	南部海音（美幌銃剣道少年団）	瀬川忠義（紫波銃剣道クラブ）	中島光（元気道場）
中学生女子	滝沢琉夏（元気道場）	平松望奈（本間道場）	近藤桃子（元気道場）	小池陽子（元気道場）

短剣道個人試合錬成

学年	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
小学1・2年生	土井朝陽（船橋武道倶楽部）	田中悠聖（鳥取県立武道館）	桑野蓉大（掛川銃剣道連盟）	鍋田煌（博真館）
小学3・4年生	岩淵将也（旭川銃剣道短剣道同好会）	羽野ゆり（船橋武道倶楽部）	橋本真莉菜（博真館）	鈴木千代（掛川銃剣道連盟）
小学5・6年生	細谷岳琉（七ヶ浜銃剣道少年団）	谷武蔵（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）	伊藤義悦（博真館）	大石幸村（掛川銃剣道連盟）
中学生	谷菅哉（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）	佐久間蒼太（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）	白井恵太（七ヶ浜銃剣道少年団）	平松望奈（本間道場）



なぎなた

8月4日開催

演技競技の部

学年	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
小学1・2年	高槻馨子・田原小桃 (港区玉恵会)	齋藤藤葉・山下凜果 (幕張なぎなたスポーツ少年団)	小川遼華・関 雛暖 (幕張なぎなたスポーツ少年団)	浅井美羽・中嶋日暖 (弥富市なぎなたクラブ)
小学3・4年A	守田智子・幾久杏実 (汎愛チューリップクラブ)	山口真歩・三村茉奈 (横須賀なぎなた協会)	松岡ゆき寧・迫みずき (さくら弥富なぎなたクラブ)	窪田惟乙・徳島 愛 (佐賀東ジュニアなぎなたクラブ)
小学3・4年B	大木美依・堀田 希 (弥富市なぎなたクラブ)	遠藤翔子・鈴木秀岳 (川崎市なぎなた連盟)	野田真悠子・別所采奈 (三重武道館クラブ)	塘彩矢佳・吉田芙蓉 (佐賀東ジュニアなぎなたクラブ)
小学5・6年A	齊藤夏未・熊谷 遙 (みたけなぎなたスポーツ少年団)	岸野真夕・関 笙乃 (豊島区なぎなた連盟)	小林諭都緑・鶴田望愛 (弥富市なぎなたクラブ)	佐藤芽以・末松奈々 (さくら弥富なぎなたクラブ)
小学5・6年B	大木みらい・上原朱莉 (与那原明なぎなたスポーツ少年団)	田中未優・塚田紗也 (身延なぎなたスポーツ少年団)	倉口心羽・花下香菜乃 (一戸町なぎなた協会)	山田萌絵・廣田優奈 (奈良市なぎなた連盟)
小学5・6年C	近藤 累・千原麻衣里 (北条なぎなたスポーツ少年団)	諸戸杏奈・下元遥香 (さくら弥富なぎなたクラブ)	宮城加奈史・宮城奈々史 (与那原町なぎなたスポーツ少年団)	高田莉子・古里優芽 (みたけなぎなたスポーツ少年団)
中学A	辰野心音・野村咲祐 (会津なぎなたスポーツ少年団)	上田紗楽・池野礼夏 (都立富士高等学校附属中学校)	大田奈央子・増川柊香 (神奈川大学附属中学校)	佐藤 遥・野村樹輝 (弥富市なぎなた連盟)
中学B	下元桜音・平野七葉 (さくら弥富なぎなたクラブ)	松谷咲良・島崎結加 (福井なぎなたクラブ)	吉野ひかる・藤井彩綾 (山形市立第三中学校)	島川実也・内田 優 (佐賀東ジュニアなぎなたクラブ)
中学C	南館日奈太・柴田朱理 (一戸町立一戸中学校)	太田涼矢・柘植七霸 (さくら弥富なぎなたクラブ)	西野光希・東條衣里 (清教学園中学校)	五味えみな・渡邊 澄 (八王子市なぎなたスポーツ少年団)
中学D	安井友菜・服部帆南 (弥富市なぎなた連盟)	服部風夏・藤生郁文 (弥富市なぎなた連盟)	田中莉央・大島弓佳莉 (会津なぎなたスポーツ少年団)	鈴木頼佳・菅野湖々菜 (会津なぎなたスポーツ少年団)
中学E	石橋苑子・松島希歩 (都立富士高等学校附属中学校)	久保田のえる・伊藤華子 (会津なぎなたスポーツ少年団)	山下心和・宮本音々 (満濃中学校)	山本瑞季・綿谷結太 (七尾市立七尾東部中学校)
中学F	洲之内桃花・神山美完 (北条なぎなたスポーツ少年団)	熊谷奈緒・菊池こころ (みたけなぎなたスポーツ少年団)	柳本凜華・井藤主都 (三郷クラブ)	栗本凜紗・木村萌々花 (高松武道館クラブ)
中学G	今木千裕・高根 凜 (会津なぎなたスポーツ少年団)	齋藤 瞳・吉田來未 (会津なぎなたスポーツ少年団)	柴田昇翔・山火教平 (一戸町立一戸中学校)	鈴木彩加・鈴木茉莉 (一戸町立一戸中学校)
中学H	添田日佳理・長島里咲 (会津なぎなたスポーツ少年団)	阿比留月乃・坂上祐輝 (伊丹スポーツセンターなぎなた教室)	後藤詩歩・大家あみん (豊島区なぎなた連盟)	永田真穂・生田目咲良 (東京都立南多摩中等教育学校)

試合競技の部

学年	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
小学3年	守田智子 (汎愛チューリップクラブ)	保浦里華 (港区玉恵会)	山口真歩 (横須賀なぎなた協会)	大木美依 (弥富市なぎなたクラブ)
小学4年	幾久杏実 (汎愛チューリップクラブ)	宮脇笑理 (彦根市なぎなた連盟)	岩佐 葵 (宇都宮市なぎなた連盟)	堀田 希 (弥富市なぎなたクラブ)
小学5年	末松奈々 (さくら弥富なぎなたクラブ)	大木千代 (弥富市なぎなたクラブ)	杉本 環 (東戸塚なぎなたクラブ)	小林諭都緑 (弥富市なぎなたクラブ)
小学6年	宮城奈々史 (与那原明なぎなたスポーツ少年団)	鶴田望愛 (弥富市なぎなたクラブ)	上原朱莉 (与那原明なぎなたスポーツ少年団)	児玉葉月 (武陵館中嶋道場)
中学1年	寺本春葉 (島根県なぎなた連盟)	宮本音々 (満濃中学校)	鈴木志穂 (埼玉栄中学校)	高田愛稀 (公益財団法人修武館)
中学2年	宇佐美空虹 (弥富市なぎなた連盟)	安井友菜 (弥富市なぎなた連盟)	藤原澄香 (清教学園中学校)	末松紗奈 (さくら弥富なぎなたクラブ)
中学3年	窪田彩佑 (武陵館中嶋道場)	服部帆南 (弥富市なぎなた連盟)	柴田朱理 (一戸町立一戸中学校)	早田 葵 (南砺市立福野中学校)
小学男子3・4年	奥住風人 (新潟県なぎなた連盟)	山根幹大 (養徳館)	井内啓太 (奈良市なぎなた連盟)	杉山天心 (高崎市なぎなた連盟)
小学男子5・6年	國府田駿 (やまびこなぎなたスポーツ少年団)	橋垣呂緯 (斐川スポーツ少年団)	青山 柚 (さくら弥富なぎなたクラブ)	大城立汰 (与那原明なぎなたスポーツ少年団)
中学男子	南館日奈太 (一戸町立一戸中学校)	山火教平 (一戸町立一戸中学校)	高田 瞬 (甲斐市立玉幡中学校なぎなた部)	藤生郁文 (弥富市なぎなた連盟)

高橋蒼太朗・小林大翔(千葉県・我孫子道院拳友会) 橋本盛太郎・橋本優里穂(東京都・八王子西道院拳友会) 柴崎史羽・柴崎永圭(神奈川県・横浜金沢文庫スポーツ少年団) 齊藤里有・齊藤大華(静岡県・浜名湖西道院拳友会) 片岡千佳・大川綾斗・室井良太・寺谷洋祐(和歌山県・南部スポーツ少年団)

◆単独基本演武

◆小学生3級〜1級

八重樫優太(岩手県・滝沢スポーツ少年団) 舟木蒼(福島県・福島鮫川道院拳友会) 林茉依(茨城県・波崎スポーツ少年団) 水出拓実(群馬県・上州白根道院拳友会) 岩田悠之介・斎藤亮澄(群馬県・前橋橋道院拳友会) 長澤佑弥(埼玉県・埼玉鶴瀬道院拳友会) 大澤絢女(埼玉県・埼玉深谷道院拳友会) 長峯魁児(埼玉県・埼玉藤久保道院拳友会) 嶋村旺大(埼玉県・志木スポーツ少年団) 野中慎人(埼玉県・武蔵嵐山スポーツ少年団) 駒場大維知(千葉県・市原千種スポーツ少年団) 佐藤蒼の(千葉県・市原東道院拳友会) 肥後健太(千葉県・浦安スポーツ少年団) 野口拓海(千葉県・千葉海浜スポーツ少年団) 角田優佳(千葉県・千葉海匠道院拳友会) 樽塚夢渚(千葉県・千葉茂原道院拳友会) 沢田玲雄(東京都・東京王子道院拳友会) 川村鷹之将(東京都・東京辰巳道院拳友会) 鈴木陽琉(東京都・東京錦糸道院拳友会) 榎香織(東京都・日本武道館武道学園少林寺拳法部) 荒木まこ(神奈川県・神奈川大和道院拳友会) 鈴木星哉(神奈川県・県央海老名スポーツ少年団) 香山完爾(神奈川県・相模大野道院拳友会) 岩本圭汰(神奈川県・秦野道院拳友会) 湯淺凜太郎(神奈川県・横浜都筑道院拳友会) 松岡悠真(新潟県・新潟湊スポーツ少年団) 宮本一花・田中咲响・安藤寧紀・山崎零弥(長野県・信州宮田生涯教育スポーツクラブ) 大城晴琉(静岡県・浜北東道院拳友会) 田中愛(愛知県・熱田道院拳友会) 太田歩武(愛知県・一宮中部道院拳友会) 倉谷直希・大澤伊織(京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団) 箕輪亨(奈良県・大和桜井道院拳友会) 前田琉人(奈良県・大和桜井西道院拳友会) 橋本隆清(和歌山県・和歌山西庄スポーツ少年団) 大王丸真斗(岡山県・備中高松スポーツ少年団) 川上清丸(徳島県・大麻スポーツ少年団) 小滝輝人(香川県・栗井スポーツ少年団)

◆小学生4級の部

箱崎大嘉(岩手県・花巻南道院拳友会) 日置実来(福島県・福島双葉道院拳友会) 秋山浩汰(茨城県・波崎スポーツ少年団) 飛田篤芳(茨城県・ひたちなか市松戸スポーツ少年団) 篠崎大河(栃木県・佐野道院拳友会) 児島淳平(群馬県・前橋中部道院拳友会) 佐光優奈(千葉県・我孫子道院拳友会) 久保ラメル(千葉県・千葉海浜スポーツ少年団) 岩田隼(千葉県・千葉清見台道院拳友会) 平林幸也(東京都・経堂道院拳友会) 荒井天斗虎(東京都・東京芸術館道院拳友会) 竹本心菜(東京都・東京東陽町道院拳友会) 日高拓真(神奈川県・海老名東道院拳友会) 野村玲汰(山梨県・郡内富士スポーツ少年団) 前田琉央(奈良県・大和桜井西道院拳友会) 久保和亮(和歌山県・南部スポーツ少年団) 鳴神唯愛・玉置風・草谷美月(和歌山県・和歌山西庄スポーツ少年団) 難波翔翔(岡山県・備中高松スポーツ少年団) 岡田里奈・金澤修斗(大分県・国東港スポーツ少年団)

◆小学生6級〜5級の部

黒須雄大・古澤月汐(福島県・白河道院拳友会) 高木瑛飛(福島県・福島鮫川道院拳友会) 宍戸郁樹(福島県・福島中央道院拳友会) 菊地ももか・杉本怜南(福島県・福島双葉道院拳友会) 日高純哉(茨城県・茨城神栖スポーツ少年団) 田崎来人(茨城県・牛久市ひたち野スポーツ少年団) 長野十郎(群馬県・群馬多々良道院拳友会) 前田一光(群馬県・群馬北毛道院拳友会) 唐沢哲汰(群馬県・上州白根道院拳友会) 五十嵐陽太(群馬県・前橋橋道院拳友会) 吉田あかり(群馬県・前橋中部道院拳友会) 平岡真結莉(埼玉県・埼玉三ヶ島道院拳友会) 松澤弘翔(埼玉県・草加道院拳友会) 山岸夕真(埼玉県・武蔵嵐山スポーツ少年団) 駒場仁旗(千葉県・市原千種スポーツ少年団) 櫻川春輝(千葉県・浦安スポーツ少年団) 神谷夏帆・中山橙子・中山凜々子(千葉県・千葉海浜スポーツ少年団) 田口蒼来(千葉県・千葉清見台道院拳友会) 工藤ことは(千葉県・習志野台スポーツ少年団) 小菅陽菜(千葉県・流山北道院拳友会) 横田葵子・市毛ま々美(東京都・加住小中学校少林寺拳法部) 長谷川創(東京都・国立中スポーツ少年団) 中山瑛心(東京都・久米川道院拳友会) 菊池元喜(東京都・田無南道院拳友会) 島田碧音・砂原広陸(東京都・東京飛鳥道院拳友会) 澤田翔生(東京都・東京石神井道院拳友会) 原島健豪・西山泰生(東京都・東京東陽町道院拳友会) 森田涼平(東京都・東京久が原道院拳友会) 船越仁智(神奈川県・川崎西道院拳友会) 太田蒼空(神奈川県・相模大野道院拳友会) 金田衣舞姫(神奈川県・相模林間道院拳友会) 水澤友亮(新潟県・新潟湊スポーツ少年団) 奥田恵瑠・奥田有珠(福井県・福井新田塚道院拳友会) 中西龍耀(愛知県・熱田道院拳友会) 桃井勇起斗(和歌山県・南紀熊野スポーツ少年団) 高田葉奈・西山丈・笹原梨菜・高田圭(和歌山県・南部スポーツ少年団)

◆小学生見習い〜7級の部

野村直翔・山内ひかり(宮城県・青葉道院拳友会) 高橋聡一郎(秋田県・秋田湯沢スポーツ少年団) 佐藤星来(山形県・長井南道院拳友会) 清水琉永(福島県・白河道院拳友会) 太田優剛(福島県・白河東スポーツ少年団) 長澤健太郎(福島県・福島中央道院拳友会) 菊地はな(福島県・福島双葉道院拳友会) 石川絆星・渡部奏汰・安藤優希(茨城県・茨城神栖スポーツ少年団) 水梨風翔(茨城県・牛久市ひたち野スポーツ少年団) 伊藤向葵・花香月野(茨城県・波崎スポーツ少年団) 矢口悠聖(群馬県・群馬多々良道院拳友会) 高澤直(群馬県・前橋橋道院拳友会) 秋谷洗瑠(埼玉県・埼玉川島道院拳友会) 森成美(埼玉県・埼玉北鴻巣道院拳友会) 古俣光彩(埼玉県・埼玉深谷道院拳友会) 小林隆晟(埼玉県・東松山スポーツ少年団) 越川風雅(埼玉県・和光新倉スポーツ少年団) 宇都琥士(千葉県・我孫子道院拳友会) 西島一陽・村上日菜太(千葉県・浦安スポーツ少年団) 大木耀(千葉県・袖ヶ浦長倉スポーツ少年団) 李誠則・楊宇川・喻張照・竹本優大(千葉県・千葉市海浜スポーツ少年団) 遠藤匠悟・伊藤愛海(千葉県・千葉海匠道院拳友会) 田口大耀・井上運介(千葉県・千葉清見台道院拳友会) 樽塚陽愛(千葉県・千葉茂原道院拳友会) 最上耶那(千葉県・流山北道院拳友会) 熊谷温音(千葉県・西橋橋道院拳友会) 中村有吾(東京都・加住小中学校少林寺拳法部) 原田晴斗(東京都・江東砂町道院拳友会) 内昌初香(東京都・東京飛鳥道院拳友会) 近藤大和(東京都・東京大泉西道院拳友会) 齋藤岳(東京都・東京石神井道院拳友会) 岡部志星(東京都・東京滝野川道院拳友会) 近藤航・奥田敏大(東京都・東京西品川道院拳友会) 宮脇日向(東京都・東京錦糸道院拳友会) 児玉理九(東京都・南中部道院拳友会) 幸村遼太郎(神奈川県・海老名東道院拳友会) 青木良磨・横山沙門(神奈川県・小田原道院拳友会) 高橋基治(神奈川県・神奈川大和道院拳友会) 鈴木愛月(神奈川県・県央海老名スポーツ少年団) 田原星・氏家ちなつ(神奈川県・下溝スポーツ少年団) 原田航希(神奈川県・横浜都筑道院拳友会) 堀理哉(新潟県・新潟亀田道院拳友会) 田中結人(新潟県・新潟湊スポーツ少年団) 樋本拓也・小林舞斗(長野県・長野南スポーツ少年団) 田中歩(愛知県・熱田道院拳友会) 加藤光暉(愛知県・名古屋植田道院拳友会) 峰松篤志(愛知県・名古屋太子道院拳友会) 北芽桜・鈴木新入・森谷優稀(愛知県・名古屋伏屋道院拳友会) 大村晴次郎(京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団)

◆団体の部

◆中学生の部

安武那美・篠塚舞乃・北原萌香・石神遙華・前島京佳・下河夏美・高瀬栄誉・高橋愛里彩(茨城県・清真学園少林寺拳法部) 小田切紗羅・島田瑞穂・島田祥太郎・石岡愛将・藤井葉衣樹・樋田斎司(群馬県・群馬北毛道院拳友会) 木谷陽風・渡辺流唯・吉田響希・吉野久人・山村楓夕・長岡力哉(東京都・加住小中学校少林寺拳法部 A) 中村真優華・満田灯里・野島さち・小澤美裕・谷津ひなた・大西ひなた(東京都・加住小中学校少林寺拳法部 B) 市古光音・三原碧音・加藤大雅・近藤亮斗・古川鈴菜・矢野愛理(愛知県・豊明西川スポーツ少年団) 服部瑠璃・服部瑠起・八田眞枝・中島幹太・市川晃丞・幸島歩夢(愛知県・名古屋太子道院拳友会 A) 吉水友佑・廣瀬凱・川合瑠也・近藤康世・新納真真・森島日向(愛知県・名古屋太子道院拳友会 B) 名倉大稀・永田瑛子・徳田琉生・河合好香・植本莉奈・所直希(名古屋なるこ道院拳友会) 岡田瞭・福井基人・吉田拓真・中村湧・松本幸夫・武部鑑(京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団)

◆小学生の部

若林柑奈・井野口航汰・長野羅羅・深澤叶夢・石川琳彩・丹内結愛(群馬県・群馬多々良道院拳友会) 岩田悠之介・斎藤亮澄・五十嵐陽太・鈴木陽向・高澤諒・高澤直・山口太一・今泉芽久(群馬県・前橋橋道院拳友会) 山口聡太・飛田和蓮・高橋大我・中山閨之祐・小池悠・中村心音(埼玉県・東松山スポーツ少年団) 福島大稀・瀬山陽向・野中慎人・田中悠里・村田雅暉斗・山岸夕真(埼玉県・武蔵嵐山スポーツ少年団) 高橋蒼太朗・野口心乃助・小林大翔・伊東照真・松浦篤志・高橋葉流(千葉県・我孫子道院拳友会) 田中大暉・二日市陸生・山本修斗・谷津優・北原優・野田悠貴(東京都・加住小中学校少林寺拳法部 A) 蟹江飛呂・竹本心菜・原島健豪・河内颯介・西山泰生・鈴木達彦(東京都・東京東陽町道院拳友会) 中田光南・野田宛佳・中出愛斗・中田柁太・中出楓香・中田咲希子(石川県・石川根上スポーツ少年団) 川崎哲太・増田聖大・太田輝・馬場美尋・田口初陽・吉田一登(静岡県・湖西新居スポーツ少年団) 上馬場慎也・古川遥己・近藤夏風・濱島芽華・吉田廉之介・城田健太郎・森川詠太・濱島大河(愛知県・豊明東道院拳友会) 川合美緒・八田知咲・牧村一生・新納健心・新郷日奈子・吉水ありさ(愛知県・名古屋太子道院拳友会) 倉谷直希・大村航太郎・中村悠希・井上理仁・魚住柁・大澤伊織・糟野稜一・大村晴次郎(京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団) 大山悠・濱路太志・宮本音哉・高田葉奈・片岡啓二・中村大河・栗山穂乃花・三前遥愛(和歌山県・南部スポーツ少年団 A) 大川綾斗・片岡千佳・坂上亮輔・室井良太・寺谷洋祐・大木琥太郎・堀口虎之介・石丸万葉(和歌山県・南部スポーツ少年団 B) 井藤ひより・井藤さくら・小林桜子・赤木洗太・中込志織・小林史弥(広島県・福山南道院拳友会) 篠原基希・世戸琉斗・砂野和聖・松本侑磨・森森介・秋山叶太・中西望夢(香川県・琴弾道院拳友会)

少林寺拳法 — <優秀賞>

<規定組演武>

◆小学生1級

山内隆泰・内海玲真・山内優奈・千葉紗也 (宮城県・青葉道院拳友会) 齋藤日向・織田二葉 (秋田県・秋田横手スポーツ少年団) 高柴日和・成田花 (福島県・須賀川スポーツ少年団) 海老根広造・山田悠翔 (茨城県・水戸スポーツ少年団) 堀川琳功・進藤龍一 (埼玉県・埼玉神川スポーツ少年団) 秋谷実樹・河野楓香・後藤幸音・小川理央 (埼玉県・埼玉川島道院拳友会) 五十嵐陽祐・深山偉太 (埼玉県・埼玉鶴瀬道院拳友会) 上阪悠太・田部井流樹 (東京都・東西品川道院拳友会) 八谷花怜・濱口純 (東京都・八王子陵北スポーツ少年団) 中村紗珠・島山陽菜乃 (神奈川県・神奈川嶽之内道院拳友会) 野田苑佳・中田光南 (石川県・石川根上スポーツ少年団) 鈴木果恋・有谷舞葉 (静岡県・浜北東部道院拳友会) 齋藤旭・古橋寛 (愛知県・名古屋伏屋道院拳友会) 芦田晃輔・森川大喜 (京都府・福知山スポーツ少年団) 田邊準平・小倉摩沙斗 (徳島県・徳島北島スポーツ少年団)

◆小学生2級

上山陽菜・櫻田佑愛 (北海道・札幌手稲スポーツ少年団) 森海成・安藤成央 (埼玉県・埼玉北鴻巣道院拳友会) 高橋大我・中山潤之祐 (埼玉県・東松山スポーツ少年団) 福島大稀・瀬山陽向 (埼玉県・武蔵嵐山スポーツ少年団) 野口心乃助・伊東照真 (千葉県・我孫子道院拳友会) 安井準輔・海沼元寅 (東京都・東西品川道院拳友会) 鳥越希羽・池田来々南 (東京都・八王子陵北スポーツ少年団) 田川勝太郎・田川真帆 (神奈川県・小田原道院拳友会) 林由・大室快 (神奈川県・川崎柿生道院拳友会) 山口七穂・菊地和花 (神奈川県・下溝スポーツ少年団) 梶川結和・伊藤綾那 (愛知県・デンソー少林寺拳法部) 八田知咲・吉水ありさ・川合美緒・新郷日奈子・牧村一生・新納健心 (愛知県・名古屋太子道院拳友会) 藤村洗希・古橋文彩 (愛知県・名古屋伏屋道院拳友会) 大村航太郎・中村悠希 (京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団) 堀口虎之介・石丸万葉・大木琥太郎・宮本彰彰 (和歌山県・南部スポーツ少年団) 井藤さくら (広島県・福山南道院拳友会)

◆小学生3級

佐々木菜実紗・佐々木結衣菜 (岩手県・滝沢スポーツ少年団) 宇佐美豪琉・守谷夏音 (宮城県・青葉道院拳友会) 若林柑奈・井野口航汰 (群馬県・群馬多々良道院拳友会) 坂本開基・横山瑞泉 (群馬県・渡良瀬道院拳友会) 小澤夏希・中原迅・佐藤光咲・富山漣太郎・宇田川大悠・佐藤幸太郎 (埼玉県・朝霞道院拳友会) 吉田彩夏・細田真葵 (埼玉県・埼玉神川スポーツ少年団) 大山朝陽・佐藤稜太 (千葉県・市原東道院拳友会) 林洗太・林陸人 (千葉県・千葉海匠道院拳友会) 片山祥斗・夏目誠也 (千葉県・千葉茨原道院拳友会) 横川歩海・太木琢己 (千葉県・野田川間道院拳友会) 宮本寿幸・牧野瑠依 (東京都・東京足立東和道院拳友会) 杉崎桜月・小島明日香・三留勇斗・田中椋也 (神奈川県・伊勢原道院拳友会) 中出愛斗・中田桜太 (石川県・石川根上スポーツ少年団) 前田友那・近藤龍祐 (奈良県・大和桜井西道院拳友会) 片岡啓二・中村大河 (和歌山県・南部スポーツ少年団) 藤井瑞生・行本俊聖 (岡山県・瀬戸町スポーツ少年団)

◆小学生4級

小河原めい・浅見佳李 (秋田県・秋田湯沢スポーツ少年団) 石岡歩武・田村天晴・藤井吾王葉・近藤佑里 (群馬県・群馬北毛道院拳友会) 今井千登・徳山魁士 (埼玉県・武蔵浦和道院拳友会) 小曾根幸也・蛭田咲斗 (埼玉県・蕨市スポーツ少年団) 松浦篤志・高橋葉流 (千葉県・我孫子道院拳友会) 澤口咲・篠原陸寿・弓長美恵・橋本紅麦 (東京都・こやのエンジョイくらぶ) 石川雄大・石川翔大 (東京都・東大崎道院拳友会) 四方勇輝・川谷内陽菜 (東京都・東京東無道院拳友会) 高畑慈・金子元謙 (東京都・八王子陵北スポーツ少年団) 飯塚朝陽・渡部大輝 (神奈川県・川崎柿生道院拳友会) 山口愛莉・小川華里奈 (神奈川県・下溝スポーツ少年団) 松浦智輝・桑田晃希 (山梨県・郡内富士スポーツ少年団) 古矢朝衣・鈴木琉夏 (山梨県・山梨峡西スポーツ少年団) 山崎陽斗・永井智也 (長野県・塩尻スポーツ少年団) 井上理仁・魚住佟 (京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団)

◆小学生5級

星咲音・渡部陽・中村顕久・中村祥久 (宮城県・青葉道院拳友会) 貝田一翔・澤山豪人 (埼玉県・埼玉三ヶ島道院拳友会) 藤原亜季都・花園康太郎 (埼玉県・草加道院拳友会) 田中悠里・村田雅惺斗 (埼玉県・武蔵嵐山スポーツ少年団) 佐藤快俐・又木亮佑 (千葉県・鎌ヶ谷初富スポーツ少年団) 城山維次・小菅耕太 (千葉県・流山北道院拳友会) 田中大峨・二日市陸生・山村柊斗・谷津優・北原優・野田悠貴 (東京都・加住小中学校少林寺拳法部) 井上紘杜・近藤和志 (東京都・東京足立東和道院拳友会) 若松宗亮・長内康樹 (東京都・東京東無道院拳友会) 河内颯介・鈴木達造 (東京都・東京東陽町道院拳友会) 片山匠・長坂敏希 (東京都・日本武道館武道学園少林寺拳法部) 中村悠太郎・大西陽輝 (東京都・南中野道院拳友会) 田川虎次郎・小島碧輝 (神奈川県・小田原道院拳友会) 飯田葉月・吉田小純 (神奈川県・神奈川大和道院拳友会) 谷川満音・矢島佳苗 (神奈川県・川崎柿生道院拳友会) 渡邊京佑・渡邊淳史 (神奈川県・川崎西道院拳友会) 今津有彩・梶原真拓 (山梨県・山梨峡西スポーツ少年団) 北琥珀・藤村誠士 (愛知県・名古屋伏屋道院拳友会) 栗山穂乃花・三前遥愛・形部颯太・中内柚希 (和歌山県・南部スポーツ少年団)

◆小学生6級

佐々木蓮次・田鎖あかり (岩手県・滝沢スポーツ少年団) 野村有生・高橋明里 (宮城県・青葉道院拳友会) 和泉洗成・小金屋日向 (秋田県・秋田湯沢スポーツ少年団) 玉手大翔・石井海羽 (埼玉県・埼玉飯能北道院拳友会) 八谷朱莉・吉田雄星 (東京都・国立中スポーツ少年団) 古木崇太郎・渡邊峻介 (東京都・東京大崎道院拳友会) 横山潤・櫻井里菜 (東京都・東京石神井道院拳友会) 蓮沼亜彩子・馬場勇誠 (東京都・八王子西道院拳友会) 杉崎佑悟・古木日菜・古木友菜・三留楓太 (神奈川県・伊勢原道院拳友会) 元木紗花・柴田七海 (神奈川県・相模林間道院拳友会) 湯浅妙香・齋藤美貴・加藤大稀・齋藤琢 (神奈川県・横浜都筑道院拳友会) 石橋夢望・森内康生 (新潟県・新潟湊スポーツ少年団) 中出楓香・中田咲希子 (石川県・石川根上スポーツ少年団) 長嶺乙叶・長嶺乙史 (岐阜県・各務原中央スポーツ少年団) 藤田徠夢・深浦美千花 (愛知県・一宮中部道院拳友会) 森澤香穂・森澤暖 (愛知県・名古屋植田道院拳友会) 長田美優・船橋芽華 (愛知県・名古屋伏屋道院拳友会) 小林桜子・小林史弥・中込志織・赤木洗太 (広島県・福山南道院拳友会)

◆小学生見習い〜7級

千葉結井・相澤和花 (宮城県・青葉道院拳友会) 三浦勲太郎・李夏陽 (宮城県・仙台西道院拳友会) 鈴木爽太・永井宗甫 (茨城県・ひたちなか市湊スポーツ少年団) 石川琳彩・丹内結愛 (群馬県・群馬多々良道院拳友会) 高澤諒・山口太一 (群馬県・前橋橋道院拳友会) 野崎大地・羽鳥哲聖 (埼玉県・埼玉中部道院拳友会) 酒井遼・酒井駿 (埼玉県・蕨市スポーツ少年団) 渡部実緒・吉田舞衣 (東京都・加住小中学校少林寺拳法部) 田山航輝・田浦孝彰・岩崎隆治・奥富由宇 (東京都・田無南道院拳友会) 熱田玄玖・池西悠征 (東京都・東京足立東和道院拳友会) 馬場翔大・草木義雄 (東京都・八王子西道院拳友会) 田口朝架・中村心 (神奈川県・伊勢原道院拳友会) 近川理一・谷谷田和 (神奈川県・神奈川大和道院拳友会) 山中萌菜・國貞沙織 (神奈川県・川崎東道院拳友会) 菊地花歩・井出瑛海 (神奈川県・下溝スポーツ少年団) 桑本彩未・中沢瑠那 (長野県・塩尻スポーツ少年団) 石原悠飛・仲野早里加 (愛知県・デンソー少林寺拳法部) 平松直直・山下夢月 (愛知県・名古屋太子道院拳友会) 笹原悠聖・西口紗愛 (和歌山県・南部スポーツ少年団)

<自由組演武>

◆中学生有段の部

田崎蓮太・高嶋大輝・田崎成禎・西山耕友 (栃木県・栃木瑞穂道院拳友会) 小田切紗羅・佐藤咲慧・島田祥太郎・藤井葉衣樹 (群馬県・群馬北毛道院拳友会) 大角忠靖・岩田朋太郎 (群馬県・前橋橋道院拳友会) 角田正人・角田諒 (千葉県・千葉海匠道院拳友会) 鈴木出海・小林清紗 (千葉県・千葉清見台道院拳友会) 花谷隆仁・宮崎大翔 (千葉県・西船橋道院拳友会) 渡辺流唯・吉田響希・佐々木陽風・野島さち・吉野久人・中馬隆聖・中村真優華・満田灯里・小澤美鈴・谷津ひなた (東京都・加住小中学校少林寺拳法部) 樋口龍健・菊池一 (神奈川県・伊勢原道院拳友会) 河野友希・中村洗士 (神奈川県・神奈川嶽之内道院拳友会) 南緑仁・小保田佳佑・川崎柿生道院拳友会) 神丸慎之介・田中悠和 (新潟県・新潟湊スポーツ少年団) 三原瑞久・杉山輝明 (愛知県・豊明東道院拳友会) 石田俊裕・鈴木湊 (愛知県・名古屋植田道院拳友会) 杉浦写弥武・牧村湧月・廣瀬凱・森島日向・吉水友佑・川合直也 (愛知県・名古屋太子道院拳友会) 鈴木英斗・飯野要 (名古屋なるこ道院拳友会) 岡田暁・福井基人・松本幸大・武部鑑・田澤昌友・津岡春 (京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団)

◆中学生段外の部

高橋愛里彩・高瀬菜誉・安武那美・北原萌香・石神遙華・下河夏美 (茨城県・清真学園少林寺拳法部) 河原壮汰・井邊優吾 (千葉県・流山北道院拳友会) 西山凛・澤井聡志・山村楓牙・上原岳大・長岡力哉・佐々木透空・大西ひなた・中江弥咲・任馨・谷津早・中村藍子・横松枝里香 (東京都・加住小中学校少林寺拳法部) 小泉楓・小泉泰輝 (東京都・多摩桜ヶ丘道院拳友会) 川村允悠・大竹優青 (東京都・東京辰巳道院拳友会) 井上紗希・川崎雪乃 (東京都・東京東無道院拳友会) 落合桃子・二之宮巴葉 (東京都・富士見学園少林寺拳法部) 大塚世翔・南咲太・石原理彩・熊谷奈桜 (東京都・早稲田実業少林寺拳法部) 村田伸彦・津久井心太郎 (神奈川県・神奈川大和道院拳友会) 高山琳太郎・水澤倅希 (新潟県・新潟湊スポーツ少年団) 吉田政仁・吉田政貴 (京都府・福知山スポーツ少年団)

◆小学生有段の部

飯田堅斗・渡邊和嘉 (福島県・白河東スポーツ少年団) 齋藤湊大・常松琉斗 (福島県・須賀川スポーツ少年団) 檜山湧慶・沼尻宗大 (茨城県・ひたちなか市湊スポーツ少年団) 清水美佑・田中南帆 (埼玉県・埼玉神川スポーツ少年団) 山口聡太・飛田和蓮 (埼玉県・東松山スポーツ少年団)

好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『^{はく}魄』は生きるための生命力――
『^{こん}魂』は人間を善に導く原動力――

魂魄(こころ)が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る。多くの知識を、智慧とすることができ、
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

――魂魄(こころ)を育てる――

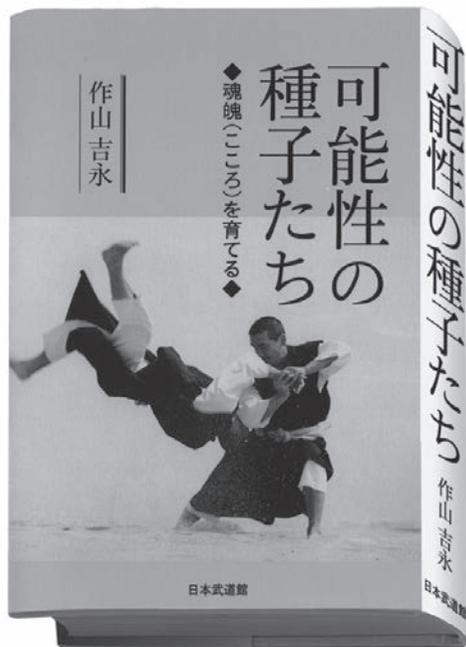
金剛禅総本山少林寺茨城高萩道院長

作山吉永 著

(四六判・上製・338頁)

主な目次

- 第1章 少林寺拳法 / 第2章 直心是道場 / 第3章 師事 /
- 第4章 マイ・アメリカ / 第5章 可能性の種子、芽吹く /
- 第6章 嵩山少林寺 / 第7章 魂魄(こころ)を育てる /
- 第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！





月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。